

公益財団法人 五井平和財団
設立20周年記念誌

THE
GOI PEACE
FOUNDATION
CELEBRATING 20 YEARS
1999-2019



Goi Peace
Foundation

May Peace Prevail on Earth

はじめに

公益財団法人五井平和財団は、1999年3月の設立以来、持続可能で平和な地球社会の創造を目指し、人々の平和意識を啓発する様々な活動を展開すると共に、科学、教育、文化、芸術などあらゆる分野が協力し、英知を結集するためのネットワークづくりを推進しています。

各種イベントの企画・開催、青少年教育、国際交流と連携、調査研究、顕彰事業など多岐に亘る五井平和財団の活動はいずれも、これからの時代に必要な新しい価値観、英知、行動様式を広め、個人のエンパワメントと社会の変容を促すものです。

この設立20周年記念誌では、これまでの主な活動実績(2019年11月時点)を概観すると共に、当財団の掲げるビジョンとその実現に向けたアプローチをご紹介します。

各事業の詳しい内容や最新情報は、ウェブサイト(www.goipeace.or.jp)をご覧ください。

公益財団法人 五井平和財団
設立20周年記念誌

CONTENTS

はじめに	2
ごあいさつ	4
設立20周年に寄せて	6
20年の軌跡(主な活動・出来事)	8
活動実績	
新しい文明に向けた英知の結集	12
五井平和賞	14
五井平和財団フォーラム	20
講演会シリーズ「21世紀の価値観」	25
特別企画イベント	28
調査研究	31
平和の担い手を育む	32
小・中・高校生対象プログラム	34
大学生対象プログラム	37
若者向けプログラム	38
教育者向けプログラム	42
一般向けプログラム	43
国際的なネットワークづくりと連携	44
国連との協力	46
富士宣言イニシアティブ	50
海外の主な参加イベントや 世界のリーダーとの交流	52
世界のパートナー団体	54
各種メディアの制作と発信	56
謝意	58
五井平和財団の理念	61
生命憲章	61
「新しい文明を築く」アプローチ	62
富士宣言	63

凡例 | 人名は敬称を省略し、五十音順としました。
肩書き、役職名は、原則として当時のものを使用しました。
人名、会社名、団体名、地名などの固有名詞は、原則として当時の呼称を使用しました。

五井平和財団会長

西園寺昌美

五井平和財団は、おかげさまで、2019年3月に設立20周年を迎えることができました。

民族、宗教、政治など、あらゆる違いを超えて、「世界人類が平和でありますように」という祈りに人類の心を結集しようと呼びかける世界平和運動を提唱した宗教哲学者、故・五井昌久氏(1916—1980)の平和理念を基盤に設立され、以来、いろいろな方からの貴重なご意見、アドバイスなどを仰ぎながら、一步一步平和に向けて進んでまいりました。

そして、賛助会員をはじめ多くの皆様のご支援をいただきながら、志を同じくする世界中の様々な分野の方々とのネットワークが築けたことにより、国際的な認知を得ると共に、想像以上の発展を遂げることができました。ここに、設立20周年記念誌という形で、これまでの歩み感慨深く振り返りつつ、改めて皆様に心から感謝を申し上げます。

しかし、20年間の世界情勢を見渡すと、戦争、紛争、難民、飢餓、自然破壊など、問題は後を絶ちません。各国政府、国際機関などが懸命に問題解決に向けた努力をしていますが、それらではなく、一体どのように解決すればよいのか、方策が見えなくなっているようにさえ思えます。

私たちは、真に世界平和をもたらすのは、人類一人一人の選択と決断にかかっていると思っております。今、求められるのは、一人一人の意識改革です。競争や対立は、国、宗教、人種など、個別の単位で考え、自国や自分だけの利益を優先す

ることから起こります。しかし、人類は、国や民族、肌の色、思想を超えてつながる一つの命、ワンネスです。独占ではなく分配し、自分や自国だけではなく、皆の幸せを考える。つまり、真の平和をつくるには、分化した小さな単位ではなく、全人類、そして生きとし生けるものすべての生命を含む地球全体で考えることが必要です。

五井平和財団では、様々な教育啓発活動を通して、今の混沌とした世界を形づくっている、人々の価値観、固定観念、常識の転換に取り組んできました。

どんな人にも、善なる心、人のために役立ちたいという心が宿っています。そのような心と呼び覚まし、崇高な精神に基づいた生き方をする人が増え、やがて政治、経済、医療、教育などの様々な分野において、人間の持つ本来の精神性が優先されるようになることが、真の平和に向けた大きな潮流になるのです。

五井平和財団は、これまで以上に人と人とのつながりを大切にし、心ある人たちと手を携えながら、平和への潮流が加速的に促進できるよう、全力で努力してまいります。

今後とも、皆様の変わらぬご厚志を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



国連総会議場にて

五井平和財団理事長

西園寺裕夫

五井平和財団は、設立20周年の節目を無事迎えることができました。

ここまで順調にこられましたのも、物・心・労、すべての面において支えてくださる賛助会員の皆様をはじめ、本当に多くの方々のご支援、ご協力によるものであると、心から感謝を申し上げます。

五井平和財団は、本部を米国ニューヨーク州に置く姉妹団体、非営利法人 May Peace Prevail On Earth International (旧名：ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティ)を通して進めてきた草の根の世界平和運動の実績をベースに、日本から平和の創造に向けた、より広範な平和啓発事業を展開することを目的に、1999年に文部科学省の認可を得て設立されました。

そして、「世界平和に向けて、人々の心と英知を結集する」というモットーを掲げ、あらゆる生命が調和し合える新しい時代のビジョンと原則を示した「生命憲章」(61ページ参照)を基本理念に、種々の事業を展開してまいりました。

人類が最も重大な分岐点に立つこの時代、世界が直面する環境や社会のあらゆる問題の根本的な解決は、人類一人一人の意識の変革にかかっていると私たちは考えています。アインシュタインの言葉どおり、「いかなる問題もその問題を生み出した意識のレベルでは、解決することはできない」のであります。五井平和財団の働きは、持続可能で平和な新しい文明の構築に向けて、これまでの常識を打ち破る世界観や生命観、新しい生き方や社会のモデルを提唱し、広めることにあります。

この目的のため、科学、教育、文化、芸術、経済など様々な分野において、人類の正しい方向性を見据えながら活動・研究している人々を、顕彰や講演会などを通して世の中に紹介すると共に、フォーラムやシンポジウムなど学際的な探求と創発の場を主催してまいりました。

そして、誰もがいきいきと自分らしく輝き、自らの意識、行動、生き方を通して平和を築くという人類共通の使命と責任を果たしていけるよう、青少年を中心に、多様な教育啓発プログラムを展開してまいりました。

また、同じ方向性を持つ世界各地の個人や団体とのネットワークを構築し、交流活動や様々な共同事業を通して、平和に向けたグローバルなパートナーシップの促進にも力を注いでおります。

世界中の同志と協力しつつ、より良い未来の担い手となる人々の人数をクリティカルマス(臨界質量)にまで増やし、社会全体の変容につなげていくことが、私どもの大きな使命であると考えております。

五井平和財団は、精神的価値と具体的なアクション、心の平和と世界の平和、時代を超えた英知と新しい思想や科学、そして東洋と西洋をつなぐというユニークな役割を担いながら、これからも世界平和への大きな流れをつくる先導役として邁進してまいります。

今後ともご支援、ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

設立20周年に寄せて

設立20年にあたり、親交の深い各界の方々からメッセージを賜りました。

五井平和財団と私とのつながりは、会長と理事長としてこの財団の二本柱である西園寺夫妻が、当時国連の軍縮担当だった私のもとに足繁く来られた80年代に遡る。明るく行動的なお二人は、当時から国境を超える平和活動を構想しておられ、私はその高い志に共鳴したのだった。

世界中で戦争や紛争が絶えない。しかも国と国との対立や戦争のみならず、文化や宗教、民族、言語、政治などの違いから生じる相互対立は益々激しく、情緒的にさえなっている。

その中で、西園寺夫妻は人々を隔てる「壁」を除去し、人と人との絆を強化する強い決意のもとに、住みやすく、平和な世界のために昼夜懸命の努力を払っている。この価値ある五井平和財団の活動がこれから20年、40年先の未来を目指して益々強化・拡大されることを心から祈ってやまない。

明石 康 公益財団法人国立京都国際会館理事長、元国連事務次長

より平等で平和な社会の構築に向けて、20年間揺るぎないコミットメントを続けてきた五井平和財団に対し、心から祝意を表します。青少年の育成とエンパワメント、国際的なネットワークづくりなど、活動の実績を積み、五井平和財団は平和に向けたポジティブで持続的な変革を実現すべく、未来のリーダーたちのために道を開くと共に、現代の先覚者たちを支えているのです。

オスカル・アリアス・サンチェス 元コスタリカ共和国大統領、2004年度五井平和賞受賞者

私がかねてより、五井平和財団の活動に深い尊崇の念を抱いてきました。

特にその理念の創始者であり、宗教哲学者でもあった五井昌久氏が提唱された「世界人類が平和でありますように」という祈りの言葉に感銘を受けていました。この言葉ほど、思いやりと愛に満ちた言葉はないと思います。

私は、生きとし生けるものすべてに善かれと願う「利他の心」こそが、人類が持つべき精神規範であり、利他の心に基づく文明は、人類の智慧と力を結集すれば、必ず実現できると信じています。

稲盛和夫 京セラ株式会社名誉会長、公益財団法人稲盛財団理事長、2014年度五井平和賞受賞者

設立20周年を迎えた本年は、五井平和財団の活動が特に世界で高く評価された年となった。

欧州の雑誌で「2018年に世界で最も我々を啓発し、影響を与え、動機付けをした100人」の一人に昌美会長が選ばれ、また、「卓越した平和活動家」として、昌美会長と裕夫理事長が「ルクセンブルク平和賞」を受賞されたからだ。

地球を取り巻く問題の解決には、精神性の高い日本人がその活動の先頭に立たなくてはならない。これから当財団は、その成果を問われる正念場を迎えることになる。

微力ながら、私自身も理事として当財団の一層の発展に協力したいという気持ちを新たに祝辞に代える。

大橋光夫 昭和電工株式会社名誉相談役

20周年誠におめでとうございます。私も貴財団の卓越したご活動に、強い感銘を受けてきた一人です。

国内外で分断の広がりや地球環境の激変・自然災害の脅威など不安が広がる今、「生命憲章」の重要性を一層強く感じます。貴財団のさらなるご活動により、世界を変える「クリティカルマス」の形成が、より一層推し進められていくことを確信と共に祈念いたします。

長 有紀枝 立教大学大学院教授、認定NPO法人難民を助ける会理事長

世界平和を目指して20年間、有意義な活動を続けてこられた五井平和財団に対し、心よりお祝い申し上げます。貴財団の尊い活動を推進する西園寺裕夫氏・昌美氏の多大なるご献身は、世界が見習うべき模範であり、その世界平和への貢献に対し、「哲学者 聖シュリー・ニャーネシュワラー賞」を授与できたことを光榮に思います。重ねてお祝い申し上げます。

ヴィシュワナート D. カラッド MIT世界平和大学理事長(インド)

私は、五井平和財団の元となった五井昌久氏の平和哲学を尊敬しております。
世界では宗教、思想の違いなどによる争いが繰り返されています。先の大戦を体験した者として、世界のどの地域においても争いのない時代がくることを願ってやみません。
貴財団のように、様々な事業を通じて常に「平和とは？」と外に発信し続けてくださることは、誠に有意義なことであります。

千 玄室 茶道裏千家前家元、公益財団法人日本国際連合協会会長

この21世紀において、我々人類の意識が進化していくためには、二つのことが求められる。
一つは、世界のすべての宗教が、「万教帰一」の精神に戻り、一つになっていくこと。
もう一つは、数千年の歴史を持つ宗教と現代の最先端科学が融合していくことである。
「富士宣言」や「ピースポール」をはじめ、人類意識の変容を目指し、素晴らしい活動をされてきた五井平和財団には、さらに、このビジョンを高く掲げ、歩み続けていただきたい。

田坂広志 多摩大学大学院名誉教授、フダバストクラブ日本代表

国家間の対立や部族の紛争、物質文明で破壊が進む自然。地球上の平和が脅かされています。一人一人が自らの神聖性に目覚めるべき時です。そうした中で、時代を先取りし、人種、宗教、文化そして国境を超えて精神文明の復活と真の平和の実現を訴え、世界をリードしてこられたのが五井平和財団です。人間だけでなく、植物も動物も地球上のすべての生命をつなぎ、平和への道を着実に開き続けて迎えられた20周年を祝福したいと思います。

堂本暁子 元千葉県知事

五井平和財団とモハメッド6世環境保護財団は、共通の理念に導かれ、パートナーシップを結びました。今後、この協力関係をより密なものに、より具体的な形にしていきたいと思っております。
五井平和財団の「生命憲章」に、全面的に賛同しておりますし、私たちは、平和と環境に貢献する人を育てていくという同じ目的に向かって取り組んでいます。お互いの経験や優良事例を交換し、学び合いを通して助け合っています。同じ大義に向かって仕事をしていることを誇りに思います。

ララ・ハスナ モロッコ王国女王 モハメッド6世環境保護財団代表、2018年度五井平和賞受賞者

国際情勢が年々複雑化する昨今、世界平和について考える人が少なくなった印象を受けるのは残念です。世界平和は、政府の外交だけに任せて良い訳ではありません。民間レベルで如何に良い関係をつくっていくかが極めて大事です。

五井平和財団は、国境や宗教宗派を超え、国際社会に不断に平和を呼びかけています。地道な活動ですが、着実に歩を進めている、民間団体の中でもユニークで貴重な存在です。

西園寺夫妻は工夫を凝らしていろいろな取り組みをされ、平和の大事さを広めています。五井平和財団の20年間の継続的な努力を高く評価しますし、今後、益々の活躍を期待しております。

福田康夫 元内閣総理大臣

植物も動物も人間も、生きとし生けるものすべては、同じ遺伝子暗号を使っていることがすでに解明されています。これは、相争っている人間も、自然環境の変化にさらされているすべての生物も、最初に生まれた命につながっていることを意味しています。だからこそ、すべての人が愛し合い、助け合い、そして、人間以外のすべての生物を思いやる心が大切です。このことを提唱し、世界に発信しておられる五井平和財団のさらなる発展に期待します。

村上和雄 筑波大学名誉教授

五井平和財団は深い精神性を通して、平和という目的に取り組む類を見ない団体である。世界の平和を実現するには、それは最も優れた方法であり、恐らく唯一の有効な道である。財団がこれからも力強く世界に発信を続け、そのメッセージが平和を求める目覚めた人々の肥沃な土壌に降り注ぎ、真に平和で精神的な世界が開花することを願っている。

アーヴィン・ラスロ フダバストクラブ創設者、2001年度五井平和賞受賞者

20年の軌跡 (主な活動・出来事)

1999年

- 3月・文部科学省の認可を得て、五井平和財団設立
- 4月・五井平和財団設立記念パーティー
- 9月・松本元講演会
- 10月・CS放送番組「平和の創造」放映開始
- 11月・ガイアシンフォニー国際版試写会
- 12月・村上和雄講演会
 - ・沖縄・糸満ピースフル・イルミネーションにて平和の式典

2001年

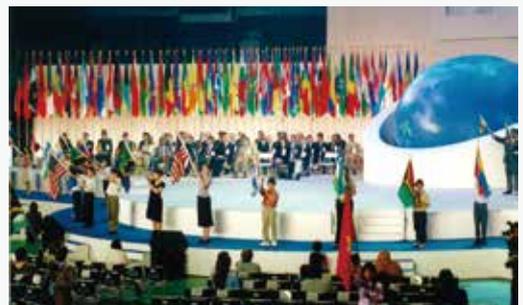
- 1月・東南アジア諸国連合(ASEAN)にて平和の式典
- 6月・熊本ピースフォーラム
- 7月・リトアニア「十字架の丘」にピースポール建立
- 8月・米州機構(OAS)にて平和の式典
- 10月・五井平和賞をアーヴィン・ラズロ氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「21世紀における人類の使命」
 - ・駐日外交官による交流プロジェクトを開始
- 11月・西園寺昌美会長がブダペストクラブ名誉会員に就任
 - ・アラブ連盟にて平和の式典
 - ・世界銀行にて平和の式典

2003年

- 1月・石油輸出国機構(OPEC)にて平和の式典
- 2月・『あなたは世界を変えられる』出版記念会
- 3月・CNNでピースメッセージの公共広告を放映開始
- 7月・国際原子力機関(IAEA)にて平和の式典
 - ・世界保健機構(WHO)にて平和の式典
 - ・国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)にて平和の式典
- 9月・佐治晴夫講演会
 - ・「国際平和デー」教育プログラムを実施
- 10月・五井平和賞をロバート・ミュラー氏が受賞
 - ・「平和の文化」特別賞を千玄室氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「平和ビジョンの実現に向けて」
- 11月・エチオピア大統領にピースポール贈呈
- 12月・比嘉照夫講演会
 - ・国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)にて平和の式典
 - ・『You Can Change the World』出版

2000年

- 2月・国連ナイロビ事務局にて平和の式典
- 3月・野澤重雄講演会
- 4月・国際ユース作文コンテストを開始
- 7月・フランコフォニー(仏語圏)国際機関にて平和の式典
 - ・沖縄サミット参加国首脳へ子どもたちのピースメッセージ贈呈
- 9月・首相官邸でピースメッセージ贈呈
 - ・内モンゴル自治区の芸術祭にてフラッグセレモニー
 - ・「生命憲章」を発表
 - ・五井平和賞をジェームス・ラブロック氏が受賞
 - ・「平和の文化」特別賞を文化財保護振興財団が受賞
 - ・「平和の文化」創造のための2000年祭
- 11月・パネルディスカッション「ラブロック博士に聞いてみよう！」
- 12月・欧州安全保障協力機構(OSCE)にて平和の式典



2002年

- 1月・独立国家共同体(CIS)にて平和の式典
- 2月・ソルトレイク冬季五輪記念ピースポール・パスウェイ公開(全米5局でTV放映)
 - ・太平洋諸島フォーラムにて平和の式典
- 4月・フィリピンのアロヨ大統領にピースポール贈呈
- 7月・世界貿易機関(WTO)にて平和の式典
 - ・「国際山岳年」記念イベントにてフラッグセレモニー
 - ・「国際エコツアーリズム年」記念シンポジウムおよび展示会
- 10月・国連総会議長にピースポール贈呈
- 11月・五井平和賞を梅原猛氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「調和の世紀を創る」
 - ・『あなたは世界を変えられる』出版
- 12月・南アジア地域協力連合(SAARC)にて平和の式典
 - ・国際通貨基金(IMF)にて平和の式典

2004年

- 3月・村上和雄講演会
- 4月・いちかわ「平和の祭典」
- 5月・ミュンヘン政治学院で平和学講座を開講
- 6月・水野正人講演会
- 7月・神戸ピースネットフォーラム
 - ・青少年のための夏休みフォーラム
 - ・**国連経済社会理事会 (ECOSOC) との特殊協議資格を取得**
- 9月・田島義博講演会
 - ・「国際平和デー」教育プログラムを実施
 - ・オリンピック開催地アテネ市にてピースポール建立
- 10月・五井平和賞をオスカル・アリアス・サンチェス元コスタリカ共和国大統領が受賞
- 11月・五井平和財団フォーラム「世界を変える個々の力」
- 12月・ヒシャム・モハメッド・モスタファ・パドル講演会

2004

2005年

- 3月・本川達雄講演会
- 5月・「地球っ子広場」を文部科学省委託事業として全国21カ所で開設
 - ・群馬県立女子大学との連携講座「国際理解と平和～大使リレー講座～」を開講
- 6月・濱野恵一講演会
- 7月・アンデス共同体にて平和の式典
 - ・「国連持続可能な開発のための教育 (ESD) の10年」記念シンポジウム
- 9月・宗像恒次講演会
 - ・「国際平和デー」教育プログラムを実施
- 11月・五井平和賞をレスター・ブラウン氏が受賞
 - ・世界賢人会議東京会議
 - ・**国際フォーラム2005「新しい文明を築く」**
 - ・「平和の文化」特別賞をミハイル・ゴルバチョフ旧ソ連大統領が受賞
- 12月・葉祥明講演会
 - ・『Wisdom 21』出版

2005

2006年

- 3月・帯津良一講演会
- 4月・イスラム諸国会議機構にて平和の式典
- 5月・エジプト外務大臣にピースポール贈呈
 - ・レスター・ブラウンと共に2025年を考える会
- 6月・価値観とライフスタイルに関する調査を実施
- 7月・龍村仁講演会(大阪)
- 9月・鈴木エドワード講演会
- 10月・**ユネスコとの公式関係を有する財団として認定される**
- 11月・五井平和賞をデュエイン・エルジン氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「新しい文明を築く：若者とのコラボレーション」
- 12月・長内博雄講演会

2006



2008年

- 1月・「地球っ子広場」オープンスクールを開催
 - ・村上和雄講演会(大阪)
 - ・『Earthrise』出版
- 2月・アジア教員交流プログラムを実施
- 3月・塚本こなみ講演会
- 5月・会員総会「報告と感謝の集い」(市川)
- 6月・桃井和馬講演会
- 7月・平和科学調査研究会が発足
- 8月・西園寺昌美会長・西園寺裕夫理事長が「哲学者 聖シュリー・ニャーネシュワラー世界平和賞」(インド)を受賞
- 9月・島谷弘幸講演会
 - ・神津善行講演会(大阪)
- 11月・五井平和賞をビル・ゲイツ氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「世界を変える新しいフィランソロピー」
- 12月・田坂広志講演会

2008

2007年

- 2月・村上和雄講演会(広島)
- 3月・中村恵講演会
- 5月・『Philosophers of Peace』出版
- 6月・ユネスコ・アジア・ユースフォーラムを韓国済州島にて共催
 - ・渥美和彦講演会
- 7月・西園寺裕夫理事長が林宗毅博士文教基金会「文化賞」(台湾)を受賞
 - ・龍村仁講演会(仙台)
- 9月・清水博講演会
- 11月・五井平和賞をビル・ドレイトン氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「みんながチェンジメーカー」
- 12月・中田力講演会

2009年

- 2月・龍村仁講演会(福岡)
- 3月・越川禮子講演会
- 6月・安田喜憲講演会
 - ・会員総会「報告と感謝の集い」(大阪)
- 7月・『Earth Capitalism』出版
 - ・『Creating a New Civilization through Social Entrepreneurship』出版
- 9月・竹村真一講演会
 - ・国際労働機関(ILO)にて平和の式典
- 11月・五井平和賞をブルース・リプトン氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「地球人類の進化の行方～科学の世界からのメッセージ～」
- 12月・瀬谷ルミ子講演会

2011年

- 6月・阿部志郎講演会
 - ・会員総会「報告と感謝の集い」(名古屋)
- 7月・「地球っ子広場」サマーキャンプ(長野)
- 10月・ユネスコ本部のユースフォーラムにて「カルチャーイベント」開催
- 11月・五井平和賞をビル・ストリックランド氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「希望の輪を広げる」
- 12月・坂東元講演会

2013年

- 1月・Living New ワークショップを開始
- 2月・国連本部の「世界異教徒間の調和週間」記念行事に協力
- 3月・小泉英明講演会
- 6月・西辻一真講演会
 - ・会員総会「報告と感謝の集い」(福岡)
- 9月・中村桂子講演会
- 10月・「平和の文化」特別賞をホセ・アントニオ・アブレウ氏が受賞
 - ・ユネスコ本部のユースフォーラムにて「カルチャーイベント」開催
 - ・社会起業家育成オンライン・プログラムを開設
- 11月・五井平和賞をシルシラ・ダイアログ・ムーブメントが受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「平和の文化を生きる」
- 12月・畠山重篤講演会



2009

2010

2011

2012

2013

2014

2010年

- 3月・桜井邦朋講演会
 - ・竹村真一講演会(大阪)
- 4月・内閣府より公益財団法人として認定される
- 6月・赤池学講演会
 - ・会員総会「報告と感謝の集い」(市川)
- 9月・篠浦伸禎講演会
- 10月・西園寺昌美会長が女性リーダーサミット「サークルアワード」(米国)を受賞
 - ・『これから資本主義はどう変わるのか』出版
- 11月・五井平和賞をディーバック・チョブラ氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「平和をつくる意識の力」
- 12月・西園寺裕夫理事長が「社会教育功労者」として文部科学大臣より表彰
 - ・「地球っ子広場」がユネスコより「国連ESDの10年」の公式活動に認定
 - ・BELLA GAIA公演

2012年

- 2月・山崎亮講演会
 - ・『私を変えた体験』出版
- 6月・会員総会「報告と感謝の集い」(仙台)
 - ・田坂広志×竹村真一 連続講演会第1回
- 9月・田坂広志×竹村真一 連続講演会第2回
- 11月・五井平和賞をヘレナ・ノーバーグ=ホッジ氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「幸せの価値観」
- 12月・上田壮一講演会

2014年

- 2月・第1回ESD日本ユース・コンファレンス
- 3月・海部宣男講演会
- 5月・会員総会「報告と感謝の集い」(広島)
- 6月・関野吉晴講演会
- 9月・飯田哲也講演会
- 11月・ESDに関するユネスコ世界会議「ユース・コンファレンス」を共催(岡山)
- 12月・五井平和賞を稲盛和夫氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「心の復興からはじまる新しい文明」



2015年

- 1月・「富士宣言」を公表
- 2月・富士宣言関連イニシアティブ：社会変容プロセスの調査研究発表
- 3月・酒向正春講演会
 - ・ユネスコの「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」パートナー・ネットワークに参画
- 5月・富士宣言発足記念シンポジウム
- 6月・館岡康雄講演会
- 9月・西條剛央講演会
- 10月・第2回ESD日本ユース・コンファレンス
- 11月・富士宣言×経済・ビジネス～未来を共創するダイアログ～
- 12月・五井平和賞をリン・ツイスト氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「ソウル・オブ・マネー～豊かな人生を生きるために～」

2015

2016年

- 2月・会員総会「報告と感謝の集い」(高知)
- 3月・安田業津紀講演会
- 4月・「ソウル・オブ・ウィメン」イニシアティブを開始
- 5月・「ソウル・オブ・ウィメン」グローバル・ネットワーク会合
- 6月・前野隆司講演会
- 9月・新井和宏講演会
 - ・会員総会「報告と感謝の集い」(福島)
- 10月・第3回ESD日本ユース・コンファレンス(岡山)
 - ・西園寺昌美会長が「バーバラ・フィールズ人道平和賞」(米国)を受賞
 - ・コンシヤス・ビジネス・アライアンスが発足
- 11月・「平和の文化」特別賞をヌルスルタン・ナザルバエフ カザフスタン共和国大統領が受賞(迎賓館赤坂離宮にて授賞式)
 - ・五井平和賞をハフサット・アビオラ＝コステロ氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「一人一人の輝きが未来をつくる」
 - ・7 Million Actions and Prayers for Peace ワークショップを開始

2016

2017年

- 3月・ユネスコ国際教育会議にてワークショップを開催(カナダ・オタワ)
 - ・副島賢和講演会
- 5月・富士宣言シンポジウム「調和とバランスのとれた世界を共創する」
- 6月・長有紀枝講演会
- 9月・所眞理雄講演会
 - ・第4回ESD日本ユース・コンファレンス(日中韓大学生交流プログラム同時開催)
- 10月・会員総会「報告と感謝の集い」(札幌)
- 11月・若者のリーダーシップ育成ワークショップをユネスコと共催(タイ・バンコク)
 - ・五井平和賞をケニー・オースベル氏とニナ・サイモンズ氏が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「自然の叡智」
 - ・モハメッド6世環境保護財団との提携調印

2017

2018年

- 2月・アフリカ連合(AU)にて平和の式典
- 3月・小澤竹俊講演会
- 5月・ユネスコESDユース・コンファレンスに協力(パリ・ユネスコ本部)
- 6月・半谷栄寿講演会
- 8月・8.8本当の平和ってなんだろう～映画『純愛』上映と対話会～
- 9月・カザフスタン共和国初代大統領財団との提携調印
 - ・鬼丸昌也講演会
- 10月・第5回ESD日本ユース・コンファレンス(名古屋)
- 11月・五井平和賞をララ・ハスナ モロッコ王国王女が受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「いま、明日をつくる」
- 12月・西園寺昌美会長がヨーロッパの『OOM』誌「世界で最も人々をインスパイアした100人」に選出

2018

2019年

- 2月・会員総会「報告と感謝の集い」(熊本)
- 3月・船橋真俊講演会
- 4月・青少年育成に係る若手指導者養成奨学金制度開始
 - ・教員トレーニング・プログラム「Peace Prevails Programme」の協賛開始
 - ・ヨーロッパ教育者会議にてワークショップを開催(クロアチア・ドゥブロブニク)
- 5月・ピースフル・プロジェクト開始
- 6月・国際ユース作文コンテスト受賞者によるウェビナー・シリーズを開始
 - ・西園寺昌美会長・西園寺裕夫理事長が「ルクセンブルク平和賞」を受賞
 - ・村山洋史講演会
- 9月・日本・カザフスタン国際会議「核なき世界への道」
- 11月・五井平和賞をニッポン・メータ氏とサービススペースが受賞
 - ・五井平和財団フォーラム「優しさで世界は変えられる？」

2019



新しい文明に向けた 英知の結集

人類の文明は新たな進化の段階を迎えています。持続不可能な方向へ世界を動かしてきた従来の考え方や生き方を根本的に変え、調和と繁栄の文明へと向かうには、新しい価値観や意識に基づく未来のビジョンが必要です。

そこで、五井平和財団では、科学、教育、文化、芸術、経済など様々な分野において、人類の正しい方向性を見据えながら活動・研究している人々を、顕彰や講演会などを通して世の中に紹介すると共に、フォーラムやシンポジウムなど学際的な探求と創発の場を主催し、これまでの常識を打ち破る世界観や生命観、新しい生き方や社会のモデルを提唱し、広めています。

五井平和賞

科学・教育・文化・政治・経済など、様々な分野において、地球と人類の未来に真の平和と調和をもたらす上で、顕著な功績があり、「生命憲章」の理念原則と同じ方向性を持つ個人や団体を顕彰している国際的な賞です。

毎年、東京で開催される授賞式では、受賞者が記念講演を行い、多くの人々に新たな知見とインスピレーションを与えています。

また、五井平和賞の一環として、特に世界的に平和の文化の推進に寄与した個人・団体に対して、「平和の文化」特別賞を随時授与しています。

受賞者とは、組織連携など様々な形で協力関係を構築しています。



五井平和賞 歴代受賞者

2000



ジェームス・ラブロック

生物物理学者〈英国〉

地球は、自己調整能力を備えた一つの生命体であるという「ガイア理論」を提唱し、人々の地球に対する見方を大きく変え、世界的な環境への意識の高まりにも刺激を与えた。

2001



アーヴィン・ラスロ

システム哲学者、ブダペストクラブ創設者〈ハンガリー〉

地球倫理という概念を示し、転換期にある現代文明に不可欠な人類の意識の進化を促すため、科学的見地から啓蒙活動を続けてきた。

2002



梅原 猛

哲学者〈日本〉

独創的な思索で「梅原日本学」と呼ばれる日本文化の総合的な研究を展開し、常識や通説にとらわれない生命観・世界観を打ち出した。

五井平和賞受賞者の受賞記念講演は、五井平和財団ウェブサイトをご覧ください。

2003



ロバート・ミューラー

平和教育家、国連平和大学名誉総長
〈フランス〉

国連に38年間奉職。世界的オピニ
オンリーダーとして、「恒久平和は
現実的に達成しうる理想である」
との確信と勇気を与えてきた。

2004



オスカル・アリアス・サンチェス

元コスタリカ共和国大統領、アリアス
財団創設者〈コスタリカ〉

民主主義と非暴力に基づく安定的
かつ持続的な平和と、人類の進歩
のために、中米を中心に世界的に
貢献してきた。

2005



レスター・ブラウン

地球環境問題研究者、アースポリシー
研究所所長〈米国〉

環境的に持続可能で公正な経済
「エコ・エコノミー」を提唱し、地
球的課題の解決に向けて、多くの
人々の指標となり、影響を与えた。

2006



デュエイン・エルジン

未来研究者、作家〈米国〉

「ボランティア・シンプリシティ
(自発的簡素)」という価値観と、そ
れに基づく人と社会の再生を促す
エコロジカルな生き方、進化した
人類文明のあり方を提唱してきた。

2007



ビル・ドレイトン

社会起業家、アショカ財団創設者
〈米国〉

「誰もがチェンジメーカー(変革者)
になる」ことを理想に、世界各地
の社会起業家を発掘・支援し、市
民セクターの強化に大きく貢献し
てきた。

2008



ビル・ゲイツ

慈善事業家、ビル&メリンダ・ゲイツ
財団共同会長〈米国〉

「すべての命は平等の価値を持つ」
を基本理念に、個人資産を投じて
設立した世界最大規模の慈善団体
の取り組みを通して、保健医療、
貧困撲滅、教育の分野で社会貢献
を推進してきた。

2009



ブルース・リプトン

細胞生物学者〈米国〉

エピジェネティクスという新しい生物学の分野の端緒を開き、人は自らの人生をいかようにも創造できる存在であるという、新しい生命観の普及に寄与してきた。

2010



ディーバック・チョプラ

ホリスティック医学の第一人者、精神的指導者〈米国〉

心と身体健康促進に尽力するほか、古来の英知と先端科学の両面から人間の本質について説き、人々の自己啓発を支援してきた。

2011



ビル・ストリックランド

社会起業家、マンチェスター・ビッドウェル・コーポレーションCEO〈米国〉

スラム街で陶芸、写真、絵画の教室や職業訓練の機会を提供し、絶望的な境遇の人々が希望と尊厳を取り戻し、社会に貢献できる創造的な市民となるための支援を続けてきた。

2012



ヘレナ・ノーバーク=ホッジ

ローカリゼーション運動の先駆者、ISEC（エコロジーと文化のための国際協会）創設者〈スウェーデン〉

経済のグローバル化がもたらす影響について研究し、地域固有の文化と生物多様性の回復、地域経済の強化、ひいては持続可能で公正な社会づくりに貢献してきた。

2013



シルシラ・ダイアログ・ムーブメント

代表 セバスチャーノ・ダンブラ神父 平和団体〈フィリピン〉

30年間に亘り、フィリピンにおける異教徒間の調和と相互理解を目的に草の根の活動を続け、宗教精神に基づいた真の対話の文化の構築を推進してきた。

2014



稲盛 和夫

京セラ株式会社名誉会長、稲盛財団理事長〈日本〉

経営者として「人のため、世のために役立つことを成すことが、人間として最高の行為」という揺るぎない信念のもと、精神性を重視する新しい倫理観に立脚した経済社会と、自然と共存した未来の文明の構築に貢献してきた。

2015



リン・ツイスト

慈善活動家、ファンドレイザー、ソウル・オブ・マネー・インスティテュート創設者〈米国〉

世界的なファンドレイザー（資金調達専門家）としての豊富な経験と深い洞察から、お金の支配されない、真に豊かで意義ある生き方を示し、人々のエンパワメントに寄与してきた。

2016



**ハフサット・アビオラ＝
コステロ**

民主化運動家、オグン州特別顧問、NGO団体KIND創設者〈ナイジェリア〉

ナイジェリアの民主化運動を先導して命を落とした両親の遺志を継ぎ、女性の社会参画の推進やリーダーシップの育成などを通じ、アフリカ全体の民主化と発展のために貢献してきた。

2017



**ケニー・オースベル
ニナ・サイモンズ**

社会起業家、パイオニアーズ共同創設者〈米国〉

自然の英知に基づく多様なイノベーションを普及促進し、環境・社会の諸問題の解決を目指す人々のサステナビリティ・ムーブメントを牽引してきた。

2018



ララ・ハスナ王女

モハメッド6世環境保護財団代表〈モロッコ〉

子どもや若者を含む、あらゆるステークホルダーを動員し、環境保護をモロッコの全国的な取り組みにまで高め上げると共に、世界的にも環境意識啓発にリーダーシップを発揮してきた。

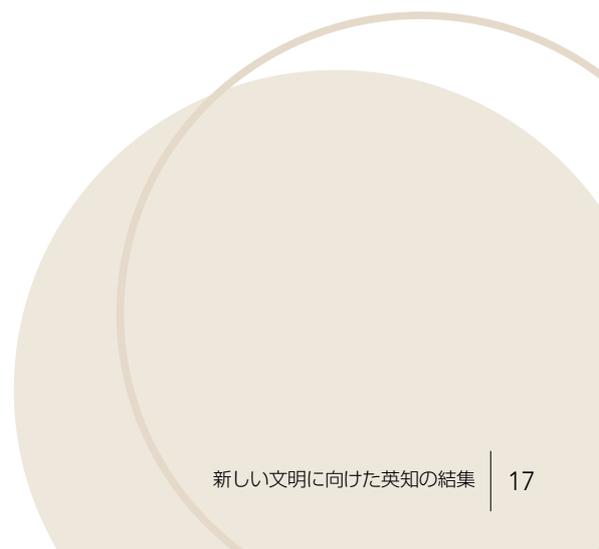
2019



**ニッポン・メータおよび
サービススペース**

ギフト経済実践者、ボランティア団体〈米国〉

ニッポン・メータ氏が創設した世界中に60万人を超えるメンバーを有する完全ボランティアの組織、サービススペースは奉仕活動とギフト経済の実践を通して、人々の内面と社会の変容を促し続けてきた。



「平和の文化」特別賞 歴代受賞者

2000



財団法人文化財保護振興財団
代表 平山郁夫理事長〈日本〉

日本画家、平山郁夫氏が提唱する「文化財赤十字」の活動理念に基づき、世界の文化遺産、文化財の保存修復事業を通して世界平和に貢献してきた。

2003



千 玄室
茶道裏千家前家元〈日本〉

日本の伝統文化である茶道を通して、国際社会に平和の文化を広め、世界平和への貢献を続けてきた。

2005



ミハイル・ゴルバチョフ
旧ソ連大統領、ゴルバチョフ財団総裁〈ロシア〉

新しい思考、価値観に基づく、より公正で平和な世界秩序を目指し、環境や現代社会の諸問題の解決に尽力してきた。

2013



ホセ・アントニオ・アブレウ
エル・システム創設者〈ベネズエラ〉

ベネズエラにおいて、音楽活動を通じて数多くの青少年を貧困や犯罪から救い、健全な市民として育成することで、平和の文化の創造に貢献してきた。

2016



ヌルスルタン・ナザルバエフ
カザフスタン共和国大統領

核なき世界の実現に向けて、核軍縮、核兵器廃絶の推進に貢献すると共に、多文化共生と多宗教間の対話を促進するイニシアティブを展開してきた。



「五井平和賞は私にとって大変思い入れの深いものです。宗教哲学者であり、作家でもあった五井昌久氏が第二次世界大戦の悲惨な荒廃を目の当たりにしてはじめた平和運動の核には、私と妻のつくった財団に通じる志、つまり“どんな命にも同じ重さがある”という理念があるからです」

——ビル・ゲイツ



「五井平和財団のような権威ある組織が、より公正で持続可能な世界の構築に果たす経済のローカリゼーション(地域化)の役割を理解し、評価くださったことは、大きな希望と励みになります。皆様の英知と支持に感謝し、世界各地に広がるローカリゼーション運動を代表して受賞の榮譽に与りたいと思います」

——ヘレナ・ノーバーク=ホッジ



「私たちは、核の悲劇から地球を守らなくてはなりません。連帯し、未来のために、そして、人類のために行動していきましょう」

——ヌルスルタン・ナザルバエフ

「バイオニアーズは、多様な社会的活動がつながる場として発展してきました。地球の反対側で世界平和に貢献し続けてきた五井平和財団が、私たちの活動を評価してくださったことは、とてつもない確証をいただいたことになります。私たちは、自然と人間のコミュニティに健康と活力を回復させたいと考えています」

——ケニー・オースベル、ニナ・サイモンズ



五井平和財団フォーラム

より良い世界をつくるための新しい視点や潮流をテーマに、国内外からのスピーカー、参加者が共に未来を展望し、考える機会として開催している当財団の最も大きな年次行事です。

五井平和賞受賞者の受賞記念講演、多分野の最前線で活躍するゲストを交えたトークセッション、国際ユース作文コンテストの受賞作品発表を中心に据えたプログラムで構成され、各国駐日大使、各界リーダー、平和を希求する市民らが、毎年1000人前後参加する「心と英知の結集」の場となっています。



国内外からの多様なスピーカーと共に未来を考える



“

「今まで世界の平和について考えたことがありませんでしたが、平和と自分の仕事を結び付けたり、自分にもっとできることがあるかもしれないと、気づくことができました」

「日本人の視点だけではなく、世界的な視点で、かつ、あらゆる世代から平和について語られたのはすごく刺激的でした」

「一人一人が心の変革に挑戦することが重要であり、それが大きな変革へつながるのだろうと感じた」

「私が知っている限り、このフォーラム以上に、持続可能で多様性のある社会をどのように次世代に残すかについて深く考えさせられるところはありません」



フォーラムを彩るアーティストたち



国際フォーラム 2005「新しい文明を築く」

マイルストーンとなった2005年のフォーラムは、「新しい文明を築く」をテーマに、ゴルバチョフ財団やローマクラブなど世界のパートナー団体との共催で開催され、東西のオピニオンリーダーと4000人を超える地球市民が集いました。サステナビリティ(持続可能性)・システム(制度)・サイエンス(科学)・スピリチュアリティ(精神性)の「4つのS」を切り口に、様々な分野の視点と英知を共有し、目指すべき新しい文明とはどのようなものかを展望しました。

(「新しい文明を築く」アプローチの詳細は、62ページをご覧ください)

金融、資源、貿易などすべてがグローバル化した相互依存の世界にあっては、有効な地球規模のシステムが必要です。しかし、新しい世界秩序を築くにも、ビジョンと政治的意思がなければ、何も変わりません。そして、市民社会の建設的な圧力がなければ、政治的意思は変わらないのです。

—— **ミハイル・ゴルバチョフ** (旧ソ連大統領)

科学が人智の頂上まで進歩を遂げた今でも、ブラックホールともいえる無意識状態が存在するのは、一体なぜでしょう。自我を無くして自由と平等と正義を求めるならば、私たち人間の精神は、地球意識として復活するはずです。

—— **ヨルダン王国 エル・ハッサン・ビン・タラール殿下**

GNPが成長し続ける必要はありません。それよりも健康、教育、人権、環境などあらゆる側面において、生活の質が向上することが大事なのです。

—— **ハイゼル・ヘンダーソン** (未来学者、経済学者)

新しい科学的見地によれば、敵対的で競合的な古細菌が平和的な協力関係へと移行し、より大きな新しい細胞を形成していった進化の過程と同じように、今、私たち人類は競争的国家から地球家族へと移行変わろうとしているのです。

—— **エリザベット・サトゥリス** (進化論生物学者)

様々な分野の科学的研究の蓄積から、人間の能力は、私たちが思っているよりもはるかに大きいということがわかっています。自分たちが広大な宇宙につながる存在であり、無限の創造力を持つ存在であることを常に直観しながら、なぜそれを私たちは認めようとしないのでしょ

—— **ジェームズ・オーディー**

(ノエティック・サイエンス研究所理事長)

私たちの未来の発展の過程は、複雑系の非線形力学に基づくでしょう。つまり、現在経験している危機は、これまで試された方法の積み重ねでは克服できないということです。抜本的で急進的な変革が求められるのです。

—— **アーヴィン・ラスロ**

(システム哲学者、ブダペストクラブ創設者)



新しい文明を築く Creating a New Civilization



これまでのフォーラムの概要

年度	テーマ	主な出演者(出演順)
2001	21世紀における人類の使命 生命憲章をテーマに、人類の新しい価値観、生き方について考えました。	アーヴィン・ラズロ (五井平和賞受賞者) 木村 孟 (大学評価・学位授与機構長) 村上和雄 (筑波大学名誉教授)
2002	調和の世紀を創る 次世代を担う子どもたちに必要な教育は何かを探りました。	梅原 猛 (五井平和賞受賞者) ジェーン・グドール (動物行動学者) ジャグディッシュ・ガンジー (教育家)
2003	平和ビジョンの実現に向けて 平和のために行動しようという世界市民の潮流「ピープルパワー」に光を当てました。	千 玄室 (茶道裏千家前家元) バーバラ・ミュラー (五井平和賞受賞者ロバート・ミュラー夫人) 井上英樹 (作曲家) ほか、音楽家たち 埼玉栄高等学校コーラス部
2004	世界を変える個々の力 一人一人の人間が持つ無限の能力の開発とその発揮方法について探求しました。	アーヴィン・ラズロ (ブダペストクラブ創設者) 富岡賢治 (群馬県立女子大学長) 宗像恒次 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教授) 村上和雄 (筑波大学名誉教授) TINGARA (音楽ユニット)
2005	新しい文明を築く サステナビリティ(持続可能性)・システム(制度)・サイエンス(科学)・スピリチュアリティ(精神性)の「4つのS」を基軸に、様々な分野の視点と英知から新しい文明を展望しました。	ミハイル・ゴルバチョフ (旧ソ連大統領) ヨルダン王国 エル・ハッサン・ビン・タラール殿下 (ビデオ出演) 北川正恭 (早稲田大学大学院公共経営研究科教授) エリザベット・サトゥリス (進化論生物学者) ピーター D. ピーダーセン (株式会社イースクエア共同創業者) ヘイゼル・ヘンダーソン (未来学者、経済学者) ジェームズ・オーディー (ノエティック・サイエンス研究所理事長) 龍村 仁 (映画監督) 村上和雄 (筑波大学名誉教授) アーヴィン・ラズロ (ブダペストクラブ創設者) 渡辺貞夫グループ (音楽家) と子どもたち
2006	新しい文明を築く：若者とのコラボレーション 世界各地から若者たちが加わり、「新しい文明を築く」イニシアティブを大きく前進させました。	デュエイン・エルジン (五井平和賞受賞者) 世界各国80人の若者 SAfro FAmily (ゴスペルグループ)
2007	みんながチェンジメーカー 社会起業家の精神に習い、誰もが変革者になる世の中を展望しました。	ビル・ドレイトン (五井平和賞受賞者) 南部靖之 (株式会社パソナグループ代表) TAEKO with ソウルメイツハーモニー (ゴスペルグループ)

年度	テーマ	主な出演者(出演順)
2008	世界を変える新しいフィランソロピー 最先端のフィランソロピーの潮流に焦点を当て、これからの社会貢献の方法について考えました。	ビル・ゲイツ (五井平和賞受賞者) ウィリアム・ゲイツ・シニア (ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同会長) 渡辺貞夫 (音楽家) 須磨学園吹奏楽部
2009	地球人類の進化の行方 ～科学の世界からのメッセージ～ 先端科学の視点から、人間の本質と可能性について探りました。	ブルース・リプトン (五井平和賞受賞者) 田坂広志 (多摩大学大学院名誉教授)
2010	平和をつくる意識の力 健康と幸せ、地球の癒しと平和を実現させる力を握る人間の意識の力について考えました。	西川千麗 (舞踊家) ディーバック・チョブラ (五井平和賞受賞者) 田坂広志 (多摩大学大学院名誉教授)
2011	希望の輪を広げる 人間が持つ創造力に着目しながら、より良い未来へ向けた人づくり、コミュニティづくりについて考えました。	ビル・ストリックランド (五井平和賞受賞者) 井上英之 (慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授) 藤原和博 (東京学芸大学客員教授) ボブ・スティルガー (ベルカナ研究所前共同所長) メリープロジェクト
2012	幸せの価値観 地域社会や自然とのつながりを取り戻し、誰もが幸せを感じて暮らせる社会づくりについて考えました。	ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ (五井平和賞受賞者) 加藤秀樹 (構想日本代表) 立花 貴 (事業家、漁師) コロネりか (歌手)
2013	平和の文化を生きる 民族、宗教、伝統などの違いを尊重し、多様な人々が共生できる「平和の文化」の育み方について考えました。	セバスチャーノ・ダンブラ神父 (五井平和賞受賞者) ホセ・アントニオ・アブレウ (エル・システム創設者/ビデオ出演)
2014	心の復興からはじまる新しい文明 現代文明の抱える問題の根本原因は人間の「心」にあるという視点を深めました。	田坂広志 (多摩大学大学院名誉教授) 村上和雄 (筑波大学名誉教授)
2015	ソウル・オブ・マネー ～豊かな人生を生きるために～ お金の支配された現代人の生活を見直し、真に豊かで意義ある生き方について考えました。	リン・ツイスト (五井平和賞受賞者) 本田 健 (作家)
2016	一人一人の輝きが未来をつくる 民主主義や市民社会が、どのように進化していくべきかを展望しました。	ハフサット・アピオラ＝コステロ (五井平和賞受賞者) 野中ともよ (NPO法人ガイア・イニシアティブ代表)
2017	自然の叡智 自然や生命の深い本質を探りながら、持続可能な未来への道筋を描きました。	ケニー・オースベル (五井平和賞受賞者) ニナ・サイモンズ (五井平和賞受賞者) マーク・アキクサ (音楽家) 鈴木菜央 (NPO法人グリーンズ代表理事)
2018	いま、明日をつくる 一人一人が環境や社会の問題を自分ごととして捉え、どのように貢献できるかを考えました。	ララ・ハスナ モロッコ王国王女 (五井平和賞受賞者) 西辻一真 (株式会社マイファーム代表取締役CEO) 松崎英吾 (NPO法人日本ブラインドサッカー協会事務局長) 村田早耶香 (認定NPO法人かものはしプロジェクト共同代表)
2019	優しさで世界は変えられる？ 誰の中にもある優しさを贈り合う「ギフト経済」の実践が広がることで、社会にどのような変容を起こすことができるかを展望しました。	ニッポン・メータ (サービススペース創設者) 宮城治男 (NPO法人ETIC. 代表理事)

講演会シリーズ「21世紀の価値観」

科学・教育・芸術・経済・外交など、様々な分野で深い洞察力を発揮し、人類の正しい方向性を見据えながら、活動・研究している講師を招き、私たち一人一人が地球生命共同体の一員として、21世紀に真に調和した世界を築いていくために必要な価値観や意識、生き方について共に考えていく講座を3カ月に一度、シリーズで開催しています。

これまでの50回を超える講演会で得た学びの数々は、いずれも示唆に富み、それらをつなぎ合わせることで、新しい世界の姿と人類の可能性が見えてきました。

新たな人間観・生命観を探求する

ホリスティック医学とは、病のステージ上だけでなく、人間の“からだ”、“こころ”、“いのち”をまると捉える、社会や自然、宇宙との調和に基づいた包括的な医学です。すなわち、生老病死、死後の世界まで全部見なくてはなりません。

—— 帯津良一 (医学博士)

自分たちのこれまでの経験や知識を再構成したり、見直すような合理的思考には限界があり、飛躍的なジャンプはできません。創造の元はこういう合理的思考ではなく、「直感」、つまり「閃き体験」から生まれるのだと思います。

—— 濱野恵一 (心理学者)

MRIの進化によって脳の働きが見られるようになり、心の働きを司る脳の器官も徐々に分かってきました。それにより、人間は、自分が損をしても相手の喜ぶ姿を見ると、喜びを感じることがデータで客観的に証明されています。

—— 小泉英明 (脳科学者、物理学者)

人間の心の本質的欲求は三つに還元できます。一つ目は「人に愛されたい欲求」、二つ目は「自分を愛したい欲求」、そして、「人を愛したい欲求」。これが「幸せになる三つの条件」であり、生きる力をつくる栄養素であり、本能だと思います。

—— 宗像恒次 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)

脳の目的は、出力ではなく、情報処理の仕組み自体をつくることであり、出力は仕組みをつくるための手段です。できることだけをしているだけでは、進歩・成長はありません。脳の目的は、まだできないことをできるように、仕組みをつくることなのです。

—— 松本元 (脳科学者)

大地は固有の振動数で動いており、その振動が、国や地域固有の言葉となっていったのだと思います。200年、300年前のゲーテやカントたちの作品の翻訳を読んで、我々が言葉の違いや時代を超えて感じるものがあるのは、大きく深いレベルで、共通の振動数があることを知っているからです。それは、宇宙の中の地球という振動数です。

—— 葉祥明 (絵本作家)

航海中は、簡単な地図だけでコンパスやGPSもなく、海の深さはその色の濃淡で確かめ、暑さや寒さ、風や匂いや埃を太古の人と同じように五感で感じながら旅をしました。現代に生きる我々は、五感を使えばいろいろなことがわかるのに、使わないから衰えていくばかりです。それは自然から離れた生き方が招いていることです。

—— 関野吉晴 (探検家)



樹の移植をさせていただく際、樹は動きたいとは思っていませんから、私はただ謙虚に語りかけると共に、樹の状態、文献、移動に適した方法を徹底的に調べるなど、自分にできる限りのことをすべて行います。すると樹が教えてくれるのか、難題を乗り越え、移植するための手段が見えてくるのです。

—— 塚本こなみ (樹木医)

豊富な種が共存する生物多様性が高い状態は、生態系の様々な機能を引き出します。さらに、多くの種が関わり合って堅牢な生態系ネットワークをつくり、生き残ろうとする適応力が集団レベルで発揮されるため、異常気象では逆に収穫できる産物数が増えるのも協生農法の特長です。

—— 船橋真俊
(ソニーコンピュータサイエンス研究所リサーチャー)

これからの社会の形を展望する

持続可能な社会づくりに求められるのは、38億年という進化の過程で安全性と機能が確認されている、生物が開発してきた技術やシステムに学び直す「自然に学ぶものづくり」です。

—— 赤池 学 (科学技術ジャーナリスト)

地震や火山、台風は、生活に被害を与えるものです。ただ、地球というのは本当に良くできており、気象の変動は地球の健康を保ち、本質的には私たちを生かしてくれている有難いものです。地球の生理を受け入れた上で適応できる逞しい文明社会をデザインしていくことが、21世紀を生きる私たちに求められる重要課題なのです。

—— 竹村真一 (文化人類学博士)

「和解」というのは、外部から強制されたり、提供されるものではなく、あくまで現地の人々が望んだときに行われるべきです。価値観の共有は押し付ける必要はなく、目的の共有が大事だと思っています。

—— 瀬谷ルミ子 (NPO法人日本紛争予防センター事務局長)

地球規模に立った客観的視野で行動する者たちが集まり、一つの全体としての行動を成した時、部分(個)の集まりからは予測のつかない大きなシナジー(相乗)効果が生まれるのだと思います。

—— 鈴木エドワード (建築家)

今や日本の生活は、世界中の国々とのつながりによって成り立っています。「物はOKだけど、人はNO」という姿勢は、少しずつでも改める必要があるように思います。

—— 長 有紀枝 (NPO法人難民を助ける会理事長)

世界の自然エネルギーは「人類史第四の革命」と例えられるほどの加速度的な拡大を続けており、大規模集中型から小規模分散型へ構造転換を起こしつつあります。地産地消を一步超えた、「地産地所有」で生まれた電力やバイオマスの燃料など、エネルギーと関係のない分野の人たちもエネルギーの自立へ向けて続々と立ち上がっているのです。

—— 飯田哲也
(認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長)

本来、金融とは、お金が必要なところへちゃんと届けるものです。意志あるお金は社会を変えます。それは投資でも寄付でも同じです。お金に表情はありません。使う人の考え方によって、良くもなれば悪くもなるものなのです。

—— 新井和宏 (鎌倉投信株式会社取締役)



21世紀に望まれるのは、協創型の組織です。トップダウンの指令系ではなく、ボトムアップの調和系で、皆が思いによってつながり、周りともつながり合えるネットワーク型組織こそ、自己実現ができる幸せな社会の形だと思います。

—— 前野隆司

(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

我々が理解すべきは、21世紀の戦いとは、牢固として変わろうとしない「病んだ社会システム」をいかに変革するかという戦いだということです。この「生命的システム」としての特徴を持つ現代の社会を変えるには、何よりも「変革の戦略」そのものを変革しなければならないと思います。

—— 田坂広志 (シンクタンク・ソフィアバンク代表)

これまでの講師の方々

赤池 学	ユニバーサルデザイン総合研究所所長 科学技術ジャーナリスト	田島義博	学校法人学習院長
渥美和彦	東京大学名誉教授 日本代替・相補・伝統医療連合会議事長	龍村 仁	映画監督(ガイアシンフォニー)
阿部志郎	社会福祉法人横須賀基督教社会館会長	館岡康雄	静岡大学大学院教授
新井和宏	鎌倉投信株式会社取締役・資産運用部長	塚本こなみ	樹木医、環境緑化コンサルタント
飯田哲也	認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長	所 真理雄	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所創設者
上田壮一	一般社団法人Think the Earth理事・プロデューサー	中田 力	新潟大学統合脳機能研究センター長
長 有紀枝	立教大学大学院教授 認定NPO法人難民を助ける会理事長	中村桂子	理学博士、JT生命誌研究館館長
長内博雄	学校法人武蔵野東学園アドバイザー・ボードメンバー	中村 恵	NPO法人日本UNHCR協会シニア・マネジャー
小澤竹俊	めぐみ在宅クリニック院長	西辻一真	株式会社マイファーム代表取締役CEO
鬼丸昌也	認定NPO法人テラ・ルネッサンス理事・創設者	野澤重雄	植物学者、協和株式会社相談役
帯津良一	医学博士、帯津三敬病院名誉院長	畠山重篤	NPO法人森は海の恋人理事長、京都大学フィールド 科学教育研究センター社会連携教授
海部宣男	国際天文学連合会長 元国立天文台台長・名誉教授	濱野恵一	ノートルダム清心女子大学大学院(心理学)教授
小泉英明	脳科学者、物理学者 日立製作所役員待遇フェロー	半谷栄寿	一般社団法人あすびと福島代表理事
神津善行	作曲家	坂東 元	獣医師、旭川市旭山動物園園長
越川禮子	NPO法人江戸しぐさ理事長	比嘉照夫	琉球大学農学部教授
西條剛央	株式会社本質行動学アカデミア代表 早稲田大学大学院(MBA)客員准教授	船橋真俊	物理学博士、株式会社ソニーコンピュータサイエンス 研究所リサーチャー
桜井邦朋	理学博士 早稲田大学理工学術院総合研究所客員顧問研究員	前野隆司	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント 研究科委員長・教授
酒向正春	世田谷記念病院副院長・回復期リハビリテーション センター長	松本 元	脳科学者、理化学研究所脳科学総合研究センター グループディレクター
佐治晴夫	宮城大学教授	水野正人	ミズノ株式会社代表取締役会長
篠浦伸禎	東京都立駒込病院脳神経外科部長	宗像恒次	保健学博士 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
島谷弘幸	東京国立博物館学芸研究部長	村上和雄	筑波大学名誉教授
清水 博	東京大学名誉教授 NPO法人場の研究所所長	村山洋史	保健学博士 東京大学高齢社会総合研究機構特任講師
鈴木エドワード	建築家	ヒシャム・モハメッド・モスタファ・バドル	駐日エジプト特命全権大使
関野吉晴	探検家、医師、武蔵野美術大学教授	本川達雄	東京工業大学大学院生命理工学研究科教授
瀬谷ルミ子	NPO法人日本紛争予防センター事務局長	桃井和馬	フォトジャーナリスト
副島賢和	昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 ホスピタル・クラウン	安田菜津紀	フォトジャーナリスト
竹村真一	文化人類学博士、京都造形芸術大学教授 Earth Literacy Program代表	安田喜憲	環境考古学者、国際日本文化研究センター教授
田坂広志	多摩大学大学院名誉教授 シンクタンク・ソフィアバンク代表	山崎 亮	京都造形芸術大学教授、studio-L代表
		葉 祥明	絵本作家

講演会シリーズの特別企画として開催

BELLA GAIA公演(2010年12月)、特別連続企画「震災を乗り越えて、新しい未来へ」(2012年6月・9月)、日本・カザフスタン国際会議「核なき世界への道」(2019年9月)

各講師の講演録は、五井平和財団ウェブサイトをご覧ください。

特別企画イベント

国連が定める国際年を記念するイベント

国連が特定のテーマを設定し、国際社会に取り組みを呼びかける様々な国際年を記念し、特別企画イベントを開催しました。

「平和の文化」創造のための2000年祭

2000年9月／日本武道館

「平和の文化国際年」記念行事として、『『平和の文化』創造のための2000年祭』を開催しました。高円宮同妃両殿下ご臨席のもと、各界のリーダーを含む約1万人が国内外から集いました。87カ国の駐日大使が自国の国旗を掲げて登壇した世界各国の平和を祈るフラッグセレモニーのほか、裏千家前家元 千 玄室氏の御茶湯の儀、人間国宝 望月朴清氏と青木鈴慕氏による和楽の演奏、合気道道主 植芝守央氏の演武など、和の文化を世界に発信しました。



「国際エコツーリズム年」

記念シンポジウムおよび展示会

2002年7月／国連大学

「国際エコツーリズム年」を記念し、国連広報センター、日本エコツーリズム協会との共催で、「地球を体験し、地球を守る新しい旅」と題したシンポジウムを開催しました。また、UNギャラリーにて、世界各地のエコツーリズム活動のパネル展示を行いました。

「国連持続可能な開発のための教育の10年」

記念シンポジウム

2005年7月／国連大学

「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」のスタートを記念し、国連広報センターとの共催で、「未来をつくる教育を考えるシンポジウム」を開催しました。学校や地域の教育関係者を対象に、ESDの理念や実践例を紹介しました。

富士宣言イニシアティブ関連のシンポジウム

新しい文明に向けて、一人一人の意識変革を呼びかける「富士宣言」を2015年に発表して以降、この宣言をテーマに、未来社会について考える国際シンポジウムを開催してきました。

(富士宣言イニシアティブの詳細は、50ページをご覧ください)

富士宣言発足記念シンポジウム

2015年5月/国連大学

富士宣言の発足を記念し、様々な分野で活躍する発起賛同者50人が世界各地から集い、それぞれの経験と英知を持ち寄る対話型のシンポジウムを行い、目指す未来のビジョンを共創しました。

富士宣言×経済・ビジネス

～未来を共創するダイアログ～

2015年11月/国連大学

ビジネス・経済の分野で活躍する国内の若者が参加し、富士宣言の価値観、世界観を共有しました。あらゆる生命に資する経済をつくるには、同じ未来を目指す者同士が互いに支援し合うコミュニティを育てることが重要であると話し合いました。

「ソウル・オブ・ウィメン」グローバル・ネットワーク 会合

2016年5月/国際文化会館

富士宣言の新たな展開として、神聖なる女性性の価値観に光を当て、社会のバランスを取り戻そうという、「ソウル・オブ・ウィメン」イニシアティブが発足し、趣旨に賛同する様々な分野のパイオニアが世界各地から集いました。

富士宣言シンポジウム

「調和とバランスのとれた世界を共創する」

2017年5月/国連大学

世界を分断している様々なアンバランスを解消し、真に調和した世界を創造するにはどうすればいいのか。「神聖なる女性性と男性性の調和」を起点に、国内外の様々な分野で活躍する約30人のパネリストと共に考えました。



文化芸術イベント

芸術の分野でも、平和の創造に資する活動や作品を紹介してきました。

ガイアシンフォニー国際版試写会

1999年11月/東京アメリカンクラブ

母なる地球、ガイアと調和して生きていくために最も大切な人間の霊性をテーマにしたドキュメンタリー映画シリーズ、龍村 仁監督の『ガイアシンフォニー』の国際版試写会を開催し、映画出演者、各国駐日大使、外資系企業のトップなど約300人が参加しました。



8.8 本当の平和ってなんだろう

～映画『純愛』上映と対話会～

2018年8月/国連大学

広島と長崎の原爆の日の間の8月8日に開催されたこのイベントでは、平和への願いを込めた日中共同製作映画『純愛/JUN AI』の鑑賞、平和に向けた若者たちのスピーチ、300人を超える参加者同士の対話を通して、「自分にとっての平和」を考えました。



五井平和賞受賞者をゲストに迎えた企画イベント

五井平和賞受賞者の来日に合わせ、特別企画イベントを開催しました。

パネルディスカッション

「ラブロック博士に聞いてみよう！」

2000年11月/東京アメリカンクラブ

ガイア理論の提唱者、ジェームス・ラブロック博士(2000年度受賞者)と子ども・若者たちが語り合うパネルディスカッション形式のイベントを開催しました。小学生から大学生までの約200人が参加し、地球の現状や未来について、博士に直接質問しながら学びました。



レスター・ブラウンと共に2025年を考える会

「新しい文明へのロードマップ：緊急アクションプラン」 2006年5月/TOKYO FM HALL

環境問題の権威、レスター・ブラウン博士(2005年度受賞者)を迎え、20年後の未来に向けて、今日のようなアクションを取ればよいのか、株式会社イースクエア共同創業者のピーター D. ピーダーセン氏の進行のもと、講演、対談、ワークショップなどを通して参加者300人が考えました。



調査研究

平和科学調査研究会

持続可能で調和した未来への指針となる新しい世界観・生命観の探求を目的に、最先端科学の分野を含む学際的調査研究を2008年より行っています。調査研究会は、五井平和財団の賛助会員でもある様々な分野の専門家や市民科学者などで構成され、五井平和賞の候補者の推薦も行っています。

以下は、これまでの研究テーマ例です。

つながり・ワンネス

観念を超えた生命の本質としての「つながり」や「ワンネス」の意味を、様々な分野における理論や事例の調査研究から学び、新しい文明の考察につなげる。

幸せの価値観

従来の価値観における経済成長の行き詰まりを多くの人々が感じる中、文学、思想、宗教、哲学、心理学、経済学、社会人類学、システム科学などの多様な分野から幸せに関する資料を紐解き、新しい文明における真の豊かさや幸せの価値観とは何かについて、幅広い調査研究を行う。

ESD・新しい文明を築くための教育

子どもの生育環境が複雑化する現代において、未来の教育について考える。長年ESD(持続可能な開発のための教育)を社会教育の場で実践してきた「地球っ子広場」などのメソッドについて研究するほか、世界中の様々な教育論を参考にしながら、新しい文明における教育のあり方を考察する。

震災復興

東日本大震災という未曾有の天災を経験しながらも、日々復興に向かっていく東北地方には、自然、防災、文化、原子力、地域コミュニティなど、様々な視点から未来を考える上で学ぶべき事例が多く存在する。文献やメディアなどの資料を元に、新しい時代のまちづくりやコミュニティのあり方を調査研究し、アーカイブ化する。

科学的事例調査

次世代エネルギー、先端医療など、先端科学の分野は新しい文明を考える上で不可欠である。現代の科学はどこまで進んでいるのか。ジェネラリストの視点から様々な事例を調査研究し、科学の最前線を俯瞰する。

平和へのシナリオ

既存の社会システムや科学的進歩の枠にとらわれず、自由な発想で平和な未来世界の具体的なビジョンを掲げ、そこへ至るプロセスについて逆説的に考察。ショートストーリーとしてまとめる。

価値観とライフスタイルに関する調査 [2006]

地球環境、平和、社会的責任、精神性を重視した価値観を持ち、新しい文化を形成しつつある「カルチュラル・クリエイティブス(文化創造者)」^{*}と呼ばれる社会層の実態について、ブダペストクラブ、筑波大学大学院ビジネス科学研究科チーム、株式会社イースクエア、株式会社アレフと共同で、日本の生活者を対象に調査を実施した結果、約30%がこのような層に属することがわかりました。

^{*}米国の社会学者ポール・レイと心理学者シェリー・アンダーソンが、米国で行った調査研究を通して発見した新しい社会層。持続可能で平和な社会の牽引役と期待される。



平和の担い手を育む

世界平和は一人一人の心の中からはじまるものであり、誰もがより良い未来に向けた地球進化の担い手であると、私たちは考えています。

人々が自分らしくいきいきと輝き、愛と思いやりを持って、お互い同士、そしてすべての生命と調和し合いながら平和な世界を築いていけるよう、青少年をはじめ、あらゆる世代を対象に、様々な教育啓発プログラムを実施しています。

小・中・高校生対象プログラム

地球っ子広場

地域の子どもたちが自由に集い、ものづくりや自然体験など様々な楽しい活動を通じて、「心と生命」を育む課外教室です。2005年のスタート*から、これまで全国47カ所、海外10カ国で、すべてボランティアスタッフによる運営で展開してきました。ふれあいを大切に、一人一人の存在が尊重される雰囲気の中で、子どもたちが地球人としての素養を育むお手伝いをしています。

学校、自治体、NPO、図書館、コミュニティセンターなどの協力を得ながら、保護者、教師、高齢者、外国人留学生など、地域の様々な人々がプログラムづくりや活動に関わることで、地域の活性化や世代間交流にも貢献しています。

こうした活動が評価され、2010年にはユネスコ本部よりグッド・プラクティス(優良事例)として「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」の公式活動に認定されました。

※当初は文部科学省「地域子ども教室推進事業」として受託。2009年に自主運営に移行。



プログラムは、ものづくりや絵画、音楽などの創造活動、山登りやキャンプ、里山などでの自然体験、各国料理や郷土料理などの調理実習、茶道や書道などの日本文化体験、外国語や外国の文化体験など、それぞれの広場が創意工夫をしながら、子どもたちと一緒に企画している。

“

「ここはぼくの特別な居場所だ！」(小学4年生)

「“自分勝手”と“自由”の区別を体で覚え、色々な人と関わることで、一人一人個性が違うことを知り、他者を思いやる心が育っていくのを感じます」(保護者)

地球っ子広場では、「3つのお約束」(人に迷惑をかけない、自分のことは自分です、あまった力で人の手助けをしよう)を実践している。



駐日外交官による交流プロジェクト

五井平和財団では設立以来、各国駐日大使館との交流を深めてきました。その協力関係を生かしたプロジェクトの一つとして、これまで100カ国以上の駐日大使館に協力をいただき、国際理解のための教育プログラムを全国各地の小・中・高等学校で実施してきました。

各国を代表する大使や外交官がゲストティーチャーとして学校を訪問し、自国に関するレクチャーや児童生徒とのディスカッションなど直に交流することで、人種、民族、宗教、生活・文化、伝統、価値観などの違いを尊重し合える平和の精神を育んでいます。



学校間交流プログラム

海外の学校や外国人学校と日本の小・中学校との橋渡しをし、異文化や環境保護などについて学び合う交流プログラムを実施しています。



モハメッド6世環境保護財団との共同事業の一環で、日本とモロッコの学校が環境保護をテーマにビデオで交流しました。[2018]



在日ロシア人学校と都内小学校の文化交流プログラムを実施しました。[2001-2005]

特別企画プログラム

国連「国際平和デー」教育プログラム

[2003-2005]

国連が定めた「国際平和デー」(9月21日)の機会に、青少年に国連の活動や平和について学んでもらおうと、国連広報センターとの共催で「国際平和デー・教育プログラム」を実施し、全国の小・中・高等学校に参加を呼びかけました。3年間で延べ235校、9万8000人におよぶ児童生徒が参加しました。



沖縄G8サミット参加国首脳へ 子どもたちのピースメッセージ贈呈

[2000]

沖縄で開催されたG8サミットに際して、来日した各国首脳へ平和の願いを込めたピースメッセージを贈呈するプロジェクトを企画し、全国の小・中学校に呼びかけたところ、30以上の都道府県から約300校が参加し、約6万枚ものピースメッセージが寄せられました。



大学生対象プログラム

群馬県立女子大学との連携講座「国際理解と平和～大使リレー講座～」

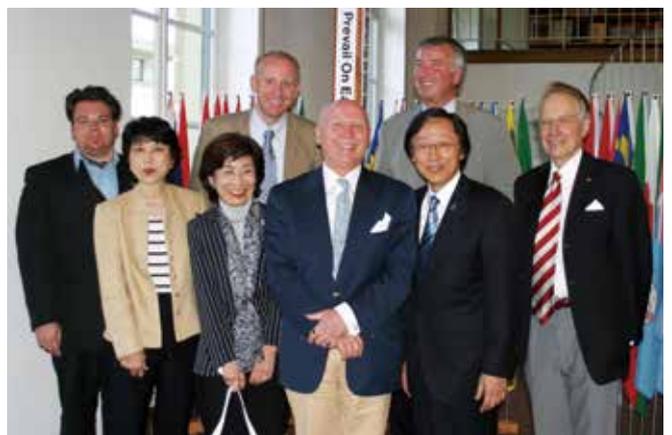
群馬県立女子大学との連携で、2005年に開講した本講座は、国際コミュニケーション学部の必修科目として年間15コマ程度、外交の第一線で活躍する駐日大使や、国際的な支援活動を行うNGOのリーダーなどを講師に招き、外交や国際協力の実情や体験を聞きながら、地球市民としての広い視野を養うものです。西園寺裕夫理事長も講師を務め、同大学の学生のみならず、一般の方も聴講できる県民公開授業としても人気の高い講座です。



ミュンヘン政治学院で平和学講座提供 [2004-2006]

ドイツのミュンヘン政治学院で大学院生を対象に、五井平和財団の名を冠した平和学の講座を3年間提供しました。平和と紛争解決について政治学や社会科学の視点から探求する講義に加え、当財団が制作したテキストを教科書として、五井昌久氏の平和哲学を学ぶ講座です。

開講記念シンポジウムでは、ピーター・コルネリウス・マイヤータッシュ学長をはじめ、西園寺昌美会長・西園寺裕夫理事長も講演を行い、その記録が出版されました。



若者向けプログラム

ユネスコと取り組むESD(持続可能な開発のための教育)

五井平和財団の青少年教育事業の枠組みとなるのが、ESD (Education for Sustainable Development = 持続可能な開発のための教育)です。ESDとは、環境、貧困、人権、平和といった、現代社会の様々な課題を解決し、持続可能な社会をつくる担い手を育む教育活動であり、世界各国が合意した17の目標からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」を達成するための重要な役割を果たしています。

当財団は、2015年よりESDの国際行動計画である「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」を推進するため、ユネスコが世界各地から約90の組織を招集して立ち上げたパートナー・ネットワークにも参画し、若者のエンパワメントと動員に貢献してきました。

ユネスコESDユース・コンファレンス 岡山開催

2014年11月/岡山市

日本で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の一環としてユネスコ、文部科学省などと共催しました。世界180カ国5000人の応募者から選ばれ、参加した、ESDを実践する若手リーダー50人が提言をまとめ、世界会議に届けました。このコンファレンスの成功はユネスコでも高く評価され、若者がESDの推進役として活躍の場を広げるきっかけとなりました。



ESDに関するリーダーシップ育成ワークショップ

2017年11月/タイ・バンコク

ユネスコとの共催で、アジア太平洋地域の23カ国から集まった若者を対象に、持続可能な社会づくりに必要なリーダーとしてのスキルを身に付けるワークショップを実施しました。参加者は、ここでの学びを生かし、それぞれ自国で同世代を巻き込みながら活動を続けています。



ユネスコESDユース・コンファレンス パリ開催

2018年5月/フランス・パリ ユネスコ本部

ユネスコがバンコクほか、各地域で実施してきた左記のワークショップの参加者が一堂に会するユース・コンファレンスが開催され、若いESDリーダーたちのグローバル・ネットワークが始動しました。当財団は実行委員会のメンバーとして本会議の企画運営に携わりました。



ESD日本ユース・コンファレンス

2014年から毎年、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会との共催で、「ESD日本ユース・コンファレンス」を開催しています。教育や人づくりを通して「より良い未来をつくりたい」という情熱を持つ全国の若者が、出会い、学び合い、連携しながら、社会の新たな潮流をつくり出していくための場を提供しています。これまでの参加者、約250人は「ESD日本ユース」のコミュニティのメンバーとして、それぞれの分野や業種で活躍しています。

(本事業は、文部科学省より日本/ユネスコパートナーシップ事業を受託して実施しています)

“

「コンファレンスでの様々なワークやほかの参加者との関わりを通して、やりたいことが明確になり、自分が取り組むべき教育の軸が固まりました」(中学校教諭)

「大切なことは、つながりを築き、一人ではなく誰かと協力することだと改めて感じた。一人では諦めそうなことでも、ここで出会ったメンバーと一緒になら持続的に活動できると思う」(大学生)



学生、教育機関、NPO、行政、企業などから選抜された全国からの若手リーダー約50人が合宿し、学び合う。



各自がESD実践力を強化する機会を得るだけでなく、新たなプロジェクトやコラボレーションなど、多くの成果が生まれている。



2017年には、「日中韓大学生交流プログラム」をユースコンファレンスと共に開催し、3カ国の大学生が東アジアと世界の未来について語り合った。

国際ユース作文コンテスト

未来を担う若者たちが、地球市民としての自覚を持って主体的に取り組めるテーマを設け、2000年より毎年、作文コンテストを実施してきました。(2007年から2014年までユネスコと共催)

近年の応募者は2万人を超え、これまで、世界192カ国から累計17万人以上が参加しています。

コンテストは、より良い世界のために何ができるか、子どもや若者たちがそれぞれに考え、行動するきっかけとなる一方、受賞作品は書籍など様々な形で紹介され、あらゆる世代の人々に感動と未来への希望を与えています。

年度	募集テーマ
2000	平和
2001	生命の尊厳
2002	調和とは何でしょうか？
2003	未来の地球 未来の自分
2004	自分の長所をいかす
2005	みんなの地球をまもる
2006	グローバル化社会における共生へ向けて ～寛容と多様性の促進～
2007	平和な世界を築くために、 メディアや情報通信技術が果たす役割
2008	より良い社会をつくるための私のプロジェクト
2009	より良い世界を築くために科学が果たす役割
2010	平和な世界をつくるために私たちができること
2011	私を変えた体験
2012	希望の未来をつくる
2013	より良い未来をつくる文化の力
2014	地球市民としての役割
2015	心の中に平和を築く
2016	より良い未来をつくるための教育
2017	自然から学ぶ
2018	私が起こしたい変化
2019	優しさがあふれる社会をつくる (20周年特別企画として、参加者には作文のほかに 10個の「優しさ」を実践してもらった)



「子どもの部」、「若者の部」、それぞれの最優秀作品に対して文部科学大臣賞が授与される。



国際ユース作文コンテスト20周年を迎えた2019年は、特別企画として、様々なフィールドで活躍している過去の受賞者たちをパネリストに迎え、月替わりで社会的なテーマについてオンライン上で語り合う、ウェビナー・シリーズの配信を行った。

各年度の受賞作品は、五井平和財団ウェブサイトでご覧いただけます。

66

「受賞は私の人生を大きく変えました。『国境を超えて平和を発信する』という題名の作文を書いたことが、ジャーナリズムの世界へ進むきっかけになりました」(2007年度受賞者)

「普段は地球の一員であると意識する機会がほとんどないが、生徒たちも身近なことが実は地球全体に影響する問題へとつながっていることに気づけたようだ」(団体応募校教諭)

「私は、この世界に絶望していません。このコンテストの作文を読むたび、そう確信します。若い彼らの気高さに勇気づけられ、感動します」(選考委員)

社会起業家育成オンライン・プログラム

革新的なアイデアや取り組みによって、社会の様々な問題の解決を目指す、若いアントレプレナー(社会起業家)を発掘・育成する目的で、ドイツのアントレプレナーシップ財団とデジタル・エキスパート・ユナイテッドと共同で、オンライン上の「アントレプレナーシップ・キャンパス」(entrepreneurship-campus.org)を2013年に開設しました。

同ウェブサイトでは、起業について学べる無料のトレーニングコースを提供しており、これまでに10万人以上が受講しています。キャンパスの参加者たちはオンライン上で交流しながら、お互いのプロジェクトを磨き合っています。

また、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に資する「アイデア」や「プロジェクト」を競い合う、「アントレプレナーシップ・コンペティション」も実施しています。これまでに3000件近い応募が予備選考を通過して正式エントリーされ、そのうち、オンライン一般投票、最終審査を経て選ばれた受賞者の多くが、国際的な評価を得ることで、取り組みを大きく前進させています。

66

「トレーニングでは多くを学び、キャンパスでは世界中のチェンジメーカーからアドバイスや刺激をもらいました。本当に素晴らしいプラットフォームです」

「応募した起業のアイデアが、2年後に実現できました。キャンパスの皆さん、ありがとう！」



コンペティションの入賞者は、毎年ベルリンで開催される国際会議「アントレプレナーシップ・サミット」で発表される。



再生プラスチックでつくった装置を水道パイプに取り付け、水の流れを利用して発電を行うという、ヨルダンの青年のプロジェクト(2018年度「ベストアイデア部門」最優秀賞)



教育者向けプログラム

平和教育教材の開発と 教員トレーニング・プログラム

姉妹団体 May Peace Prevail On Earth International が開発した小学生向けの平和教育教材と、その活用のための教員トレーニング・プログラム「Peace Prevails Programme」の普及を行っています。心の平和から世界の平和まで、段階的に意識を広げていく体験型のカリキュラムは、イギリスを中心に教育現場で活用されており、学校全体の平和の文化の醸成に成果を上げています。教員トレーニング・プログラム(英語)は、オンラインでも受講できます。

特別企画プログラム

アジア教員交流プログラム

2008年2月/東京・京都・兵庫

教育を通してどのように平和の文化を築いていくかをテーマに、アジア7カ国より招聘した初等・中等教育教員10人や日本の教育関係者らが参加し、1週間の教育交流プログラムを実施しました。ワークショップでは、宗教的寛容、非暴力、人格形成、道徳、環境など、様々な角度から平和の文化を育む各国の教育実践を学び合い、意見交換を行いました。

また、海外からの参加者は、都内および関西の学校や当財団の教育プログラム「地球っ子広場」の教室を視察し、日本の子どもたちとも交流を深めました。(本プログラムは、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)よりユネスコ青年交流信託基金事業を受託し、実施しました)



青少年育成に係る 若手指導者養成奨学金制度

スポーツ・芸術の分野で青少年育成に係る指導者を目指す若者が、優れた指導者になるための知識や能力を身に付ける研鑽活動に対し、経済的に支援する目的で2019年に発足しました。心身共に健全で、それぞれの能力や創造性を発揮できる青少年を育成する指導者の養成を通じて、豊かな社会づくりを目指すものです。

(本奨学金制度は、篤志家個人の用途指定の特別寄付金によって賄われています)

ユネスコ国際教育会議でワークショップ開催

2017年3月/カナダ・オタワ

500人近い教育関係者が参加した国際会議「UNESCO Week for Peace and Sustainable Development: The Role of Education(平和と持続可能な開発のためのユネスコ週間：教育の役割)」において、当財団が開発した「One World Compassion Workshop(世界は一つ、思いやりワークショップ)」が分科会のプログラムとして採用されました。マンガアートやピースセレモニーを取り入れた体験型のワークショップが、地球市民教育の革新的な実践事例として認められたものです。

2019年4月にクロアチアで開催されたヨーロッパの教育者会議「ラーニング・ティーチャー・ネットワーク・コンファレンス」でも実施され、好評を得ました。



一般向けプログラム

Living New ワークショップ

「人が輝ける生き方を応援し、人と人、人と社会をつなげながら、新しい未来をつくっていく」というコンセプトのもと、社会人、主婦、大学生など様々なバックグラウンドの方を対象としたワークショップを2013年から定期的を開催しています。自分自身を再発見し、多様性に触れる参加体験型のプログラムで、1回完結型のオープンカフェは、これまで11都市で開催され、その参加者の多くが全4回の連続コースを受講しています。



“

「今まで、社会が変われば自分が変わると思いこんでいましたが、自分が変われば社会が変わるのだと実感できました」

「私は社会を構成しているパズルの1ピースだと気づきました。パズルのピースは一つ一つ形が違うように、皆違って、皆素敵だと、皆が思える社会をつくっていきたいと思います」

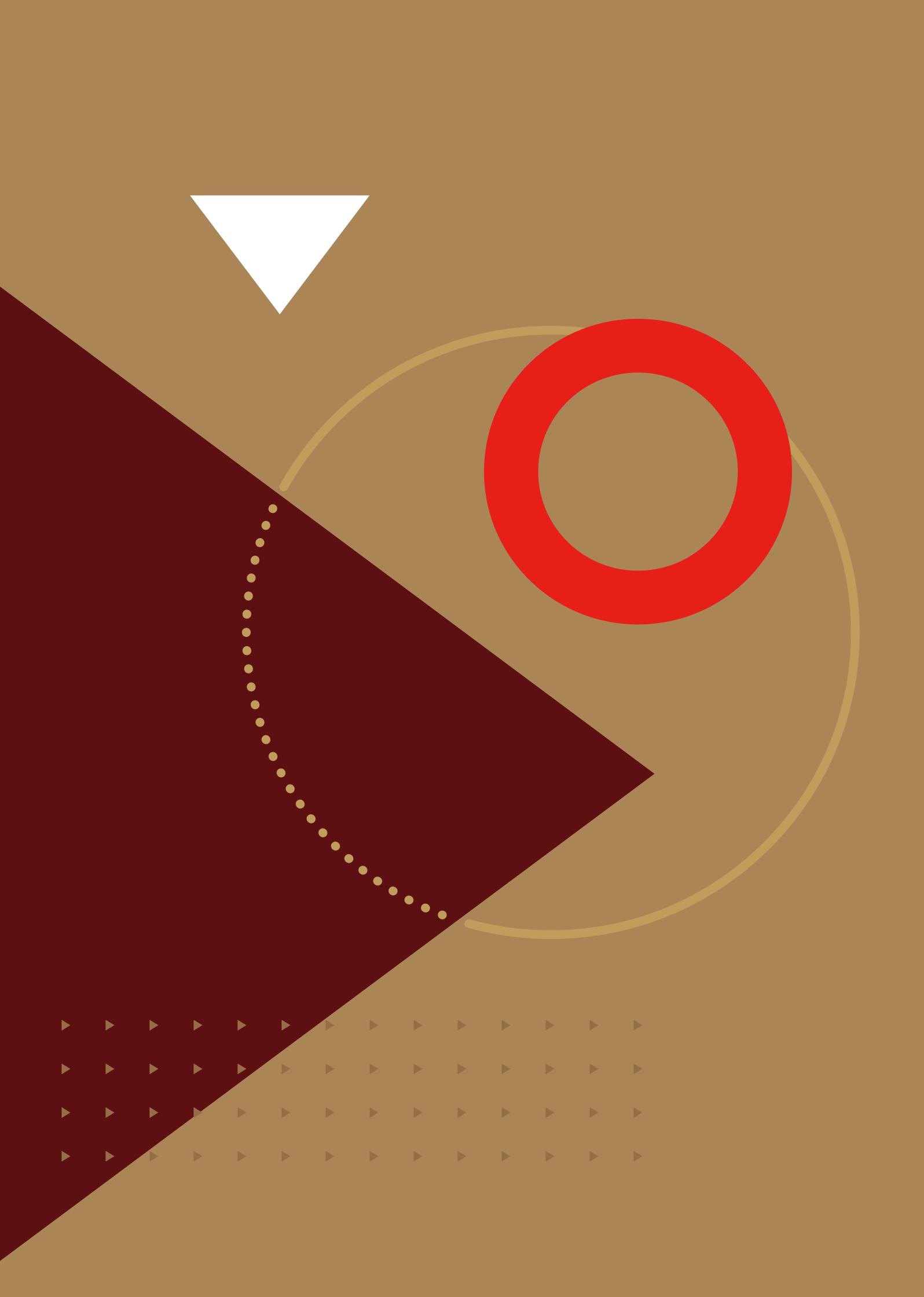
7 Million Actions and Prayers for Peace ワークショップ

平和の創造に尽力している海外からのゲストを迎え、その国について学びながら、世界の平和を共に祈り、平和を希求する人々の共感の輪を広げていこうというプロジェクトです。これまで、アフリカ、アジア、中南米、ヨーロッパから8カ国のゲストを迎え、ワークショップを開催しました。



ピースフル・プロジェクト

「生命憲章」や「富士宣言」の理念を日常生活の中で実践する参加型プロジェクトを2019年にスタートしました。「ゴミ削減月間」や「小さな優しさ月間」など、誰でも取り組める月替わりのテーマを設定し、各自ができることを考え、実行に移すことを呼びかけています。実践例や感想、気づきはSNSなどで共有し、草の根から平和で持続可能な社会づくりを目指しています。



国際的な ネットワークづくりと連携

世界の平和は、一つの団体や一握りのリーダーによって築けるものではありません。

五井平和財団は、平和に向けた大きな潮流をつくるために、同じ方向性を持つ世界各地の個人や団体とのネットワークを構築し、様々な交流活動や共同事業を通して、グローバルなパートナーシップを促進しています。

また、国連・ユネスコなどの国際機関と協力し、世界共通の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献しています。

国連との協力

五井平和財団は、2004年に国連経済社会理事會 (ECOSOC) の特殊協議資格を有するNGOに、また、2006年にユネスコ (国連教育科学文化機関) との公式関係を有する財団として認定されました。ESD (持続可能な開発のための教育) (38ページ参照) の分野での協力のほかに、様々なプログラムを共催してきました。

国連「世界異教徒間の調和週間」記念行事

2013年2月/米国・ニューヨーク 国連総会議場

国連が定める「世界異教徒間の調和週間」を記念して、第67回国連総会議長らが主催した行事「宗教間の調和を通じた平和の文化のための結束」を後援し、プログラムの企画・実施に協力しました。

国連諸機関の代表、各国国連大使、NGO代表らが登壇し、西園寺昌美会長・西園寺裕夫理事長もスピーチを行いました。そして、各宗教の代表者が平和の祈りを捧げたほか、世界各国の国旗を掲げ、1カ国ずつ平和を祈る「ワールド・ピース・フラッグ・セレモニー」が行事のクライマックスを飾りました。



会場に集った1500人が世界各国の平和を祈ったワールド・ピース・フラッグ・セレモニー。





ユネスコ・ユースフォーラム

2011年10月・2013年10月/フランス・パリ ユネスコ本部

ユネスコ本部で開催された2011年および2013年のユネスコ・ユースフォーラムに主要パートナーとして参加し、カルチャーイベントなどのプログラム制作に協力しました。ユネスコ・ユースフォーラムは、隔年に開催されるユネスコ総会の一部で、世界の若者が様々な課題に関して議論し、提言を行う機会です。

また、2007年には、韓国済州島で行われたユネスコ・アジア・ユースフォーラムを韓国ユネスコ国内委員会と共催しました。



2013年度ユネスコ・ユースフォーラムにて、カルチャーイベントのオープニングを飾る和太鼓の演奏。



2011年には各国から参加した若者が母国語で「平和」と記したピースポールが、イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長に贈呈された。



国連難民高等弁務官事務所



独立国家共同体



世界銀行



アラブ連盟



米州機構



国際原子力機関



東南アジア諸国連合



国際労働機関



世界保健機構

平和の式典

これまで、国連の諸機関をはじめ、様々な国際機関とピースポール※の建立を中心とした平和の式典を共催しました。

- ▶ アフリカ連合(AU)
- ▶ アラブ連盟(LAS)
- ▶ アンデス共同体(CAN)
- ▶ イスラム諸国会議機構(OIC)
- ▶ 欧州安全保障協力機構(OSCE)
- ▶ 国際原子力機関(IAEA)
- ▶ 国際通貨基金(IMF)
- ▶ 国際労働機関(ILO)
- ▶ 国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)
- ▶ 国連ナイロビ事務局(UNON)
- ▶ 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)
- ▶ 世界銀行
- ▶ 世界貿易機関(WTO)
- ▶ 世界保健機構(WHO)
- ▶ 石油輸出国機構(OPEC)
- ▶ 太平洋諸島フォーラム(PIF)
- ▶ 東南アジア諸国連合(ASEAN)
- ▶ 独立国家共同体(CIS)
- ▶ フランコフォニー(仏語圏)国際機関(OIF)
- ▶ 米州機構(OAS)
- ▶ 南アジア地域協力連合(SAARC)

※ピースポールは、様々な言語で「世界人類が平和でありますように」と記された平和の記念碑。姉妹団体 May Peace Prevail On Earth International が推進するプロジェクトで、平和を愛する世界中の市民によって、これまで約25万本が建てられている。

富士宣言イニシアティブ

「人間とは本来、神聖にして善なる心を持つものであり、すべての生命は一つにつながっている」という生命観を打ち出し、調和した精神文明に向けて、一人一人の意識の変革と分野を超えた協働を呼びかける「富士宣言」を、西園寺昌美会長、西園寺裕夫理事長、システム哲学者のアーヴィン・ラズロ博士の3人が共同発起人となり、2015年に発表しました。

元国家元首やノーベル賞受賞者を含む200人を超える発起賛同者、および60の国際的なパートナー組織が名を連ねるほか、富士宣言の署名者は今や数万人におよび、その価値観に基づく生き方や取り組みを実践する人々の輪が世界各地、各分野に広がっています。

五井平和財団は、富士宣言の事務局として、その理念に基づく社会の実現に向けて、学際的なシンポジウムや研究調査を企画し、様々な分野の人々と共に普及に取り組んでいます。

(「富士宣言」本文は63ページ、関連のシンポジウムの詳細は29ページをご覧ください)

富士宣言から派生したイニシアティブ

社会変容プロセスの調査研究

「富士宣言」は、様々な分野の英知の結集と協働により、人々の意識と現代社会のあらゆる領域に変容をもたらすことを目指しています。その具体的なプロセスとパラダイムシフトの可能性について、アーヴィン・ラズロ博士主導のもと、経済、政治、ビジネス、メディアの各分野の専門家チームによる調査研究を実施し、レポートを発表しました。

(レポートは、富士宣言ウェブサイト(57ページ参照)で公開しています)

ソウル・オブ・ウィメン

愛、優しさ、共感、協力、調和など、今の世界に必要な女性的な価値観を大切に、男性性と女性性のバランスのとれた社会をつくろうという目的で、西園寺昌美会長が日本の各界で活躍する女性たちと共に「ソウル・オブ・ウィメン(Soul of WoMen)」と称したイニシアティブを2016年に発足しました。

同イニシアティブの趣旨への賛同と自主活動と呼びかけたキャンペーンには、世界109カ国、1007都市にて約2万人が参加し、その後も各地で賛同者が「ソウル・オブ・ウィメン」をテーマにした活動を続けています。

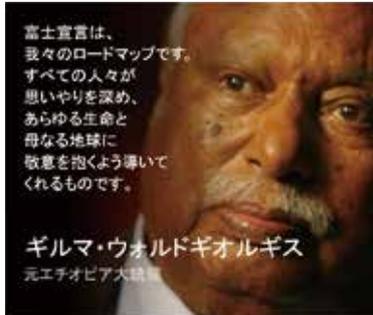
コンシャス・ビジネス・アライアンス

「富士宣言」共同発起人の西園寺裕夫理事長、アーヴィン・ラズロ博士、発起賛同者のスティーブ・ファレル氏(ヒューマニティーズ・チーム代表)、クリス・ラズロ氏(ケース・ウェスタン・リザーブ大学教授)らが中心となり、「コンシャス・ビジネス・アライアンス」を2016年に設立しました。ビジネス界の変容を模索する実業家たちをつなぎ、自然環境の保全、人類の幸福と同時に、経済的繁栄を達成する新しいビジネス・モデルの創造を目標としています。

2019年3月にオンライン上で開催された「コンシャス・ビジネス・ワールド・サミット」には、西園寺理事長ほか、社会起業、組織開発などの専門家らがパネリストとして参加し、ビジネスの分野に善なる意識を広めようと発信しました。



賛同者からのメッセージ



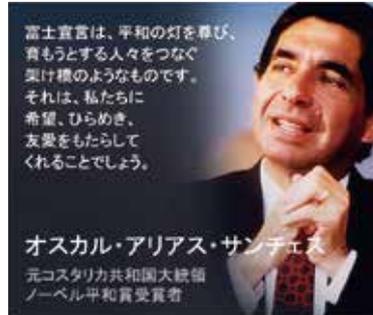
富士宣言は、
我々のロードマップです。
すべての人々が
思いやりを深め、
あらゆる生命と
母なる地球に
敬意を抱くよう導いて
くれるものです。

ギルマ・ウオルドギオルギス
元エチオピア大統領



これは素晴らしい平和の
イニシアティブです。
私は、日本人が受け
継いできた平和を守り
続けることを願っています。
それは、日本、アジア、
世界にとって
大切なことです。

マイレッド・マグワイア
ピースピープル共同創設者
ノーベル平和賞受賞者



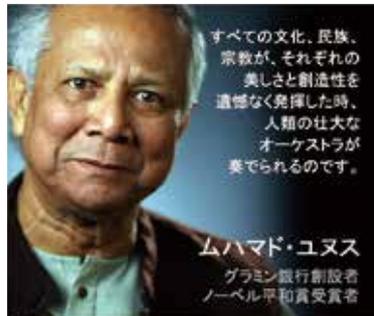
富士宣言は、平和の灯を再び、
育もうとする人々をつなぐ
架け橋のようなものです。
それは、私たちに
希望、ひらめき、
友愛をもたらして
くれることでしょう。

オスカル・アリアス・サンチェス
元コスタリカ共和国大統領
ノーベル平和賞受賞者



頭と心が平和し、
内なる自己
そして母なる自然との
精神的なつながりを取り
戻した時、私たちは初めて、
人類の真の可能性を
実現できるのです。

ジェーン・グドール
動物行動学者



すべての文化、民族、
宗教が、それぞれの
美しさと創造性を
遺憾なく発揮した時、
人類の壮大な
オーケストラが
奏でられるのです。

ムハマド・ユヌス
グラミン銀行創設者
ノーベル平和賞受賞者



富士宣言の賛同者は、時代の
変革者であり、愚かで破壊的で
悪徳に満ちた世界を、
愛と真理と思いやりに
満ちた世界へと変えて
いく人々だと思います。

クラウス・ノーベル
ユナイテッド・アース創設者



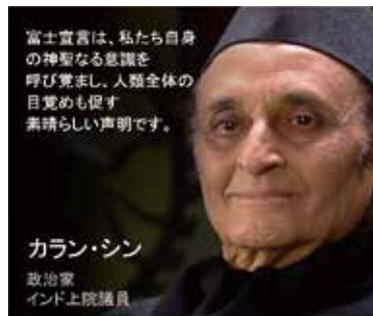
意識には不思議な強さが
あります。その一つは、
古いパラダイムが
未知として崩壊
し始めるということです。
それが今、
起きているのです。

ディーパック・チョプラ
ホリスティック医学の第一人者
精神的指導者



何と素晴らしいアイデアで、
美しい宣言なのでしょう。
且自身が公言していることと
非常に一致するものです。
喜んで賛同します。

**イレーネ・ファン・
リップ＝ピーステルフェルト王女
(オランダ王室)**
リップ＝ピーステルフェルト・
ナイチャー・カレッジ代表



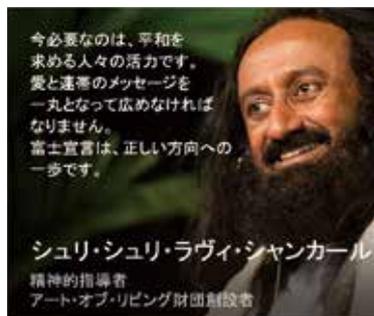
富士宣言は、私たち自身
の神聖なる意識を
呼び覚まし、人類全体の
目覚めも促す
素晴らしい声明です。

カラン・シン
政治家
インド上院議員



今こそ大きく変わる時、
そのチャンスです。
それには、
一人一人が単独で
行動するのではなく、
互いに手を結び、
革新的で創造的な方法を
共有すべきなのです。

ジーン・ヒューストン
著述家



今必要なのは、平和を
求める人々の活力です。
愛と連帯のメッセージを
一丸となって広めなければ
なりません。
富士宣言は、正しい方向への
一歩です。

シュリ・シュリ・ラヴィ・シャンカール
精神的指導者
アート・オブ・リビング財団創設者



私たちは、物質世界に深く
精通してきました。
次は、心という内なる
世界に精通する番です。
それが次の開拓地です。
外なる宇宙ではなく、
内なる宇宙です。

ピーター・ラッセル
物理学者、未来学者

海外の主な参加イベントや世界のリーダーとの交流

五井平和財団を代表し、西園寺昌美会長・西園寺裕夫理事長は、世界各地で開催される国際会議などに招かれ、平和意識を喚起する講演とネットワークづくりを行っています。



オランダ大統領後援「気候良識サミット」
(2015/フランス・パリ)



ワールド・ウィズダム・アライアンス
(2006/カナダ・トロント)

ソルトレイク冬季五輪記念
ピースボール・バスウェイ公開式典
(2002/米国・ソルトレイクシティ)

ノエティック・サイエンス研究所会議
(2006/米国・カリフォルニア州ペタルーマ)

バイオニアーズ・コンファレンス
(2018/米国・カリフォルニア州サンラファエル)

女性の宗教・精神的指導者世界サミット
(2002/スイス・ジュネーブ)
若者と人間の価値に関する会議
(2002/スイス・ジュネーブ)

国連「世界異教徒間の調和週間」イベント
(2016/米国・ニューヨーク)

国際自然保護連合 (IUCN) 主催
「世界自然保護会議」
(2016/米国・ハワイ)



モンレー・フォーラム/世界賢人会議
(2007/メキシコ・モンレー)

Association for Global New Thought
シンポジウム
(2016/米国・カリフォルニア州サンディエゴ)

チョブラ財団主催「賢者と科学者のシンポジウム」
(2011/米国・カリフォルニア州カールスバッド)

ヤシラ・アルテス主催平和式典
(1999/ブラジル・ブラジリア)



ワールド・スピリット・フォーラム/
世界賢人会議
(2006/スイス・アローザ)



dropping knowledge:
Table of Free Voices
(2006/ドイツ・ベルリン)



精神文化世界フォーラム

(2010/カザフスタン・アスタナ)

「核軍縮に向けたカザフスタンと日本の協力」円卓会議

(2018/カザフスタン・アスタナ)

平和宮開設100周年記念
異宗教間シンポジウム
(2013/オランダ・デン・ハーグ)

ドイツ福音教会会議/
世界賢人会議
(2005/ドイツ・ハノーバー)

「十字架の丘」平和式典
(2001/リトアニア・シャウレイ)

アルバート・シュヴァイツァー
世界医学学会国際シンポジウム
(2001/ポーランド・ワルシャワ)

内モンゴル平和式典
(2000/中国内モンゴル自治区・フフホト)

4・27DMZ国際平和会議
(2019/韓国・鉄原郡)

ワールド・カルチャー・フォーラム
(2009/ドイツ・ドレスデン)

URI国際平和会議
(2005/パキスタン・ラホール)

ミュンヘン国際平和会議
(1999/ドイツ・ミュンヘン)
ミュンヘン政治学院シンポジウム
(2004/ドイツ・ミュンヘン)

宋慶齡基金会設立20周年記念大会
(2002/中国・北京)

シェンゲン市主催 平和式典
(2013/ルクセンブルク・シェンゲン)

仁愛東山主催 世界平和祈願大会
(2014/韓国・光州広域市)

グローバル・リーダーズ・フォーラム
(2016/イタリア・トスカーナ)

エチオピア大統領と会見
(2003/エチオピア・アジスアベバ)

最高裁判所長官国際会議
(2019/インド・ラクナウ)

ガーナ国家公務員連合会主催平和式典
(1999/ガーナ・アクラ)

MIT世界平和大学主催
「科学・宗教・哲学の世界会議」
(2018/インド・プネ)

アロヨ大統領とアースウィーク式典
(2002/フィリピン・パタンガス)

ミラノ国際博覧会
(2015/イタリア・ミラノ)



地図は主な参加行事を記したものの。前出の国連諸機関などとの共催行事は含みません。

世界のパートナー団体

五井平和財団は、提携関係を結んでいる、モハメッド6世環境保護財団(モロッコ)やカザフスタン共和国初代大統領財団のほか、方向性を同じくする世界の数多くの教育研究機関、NPO・NGO、メディアなどの民間団体と様々な事業やイニシアティブで連携しています。



Hochschule für Politik München

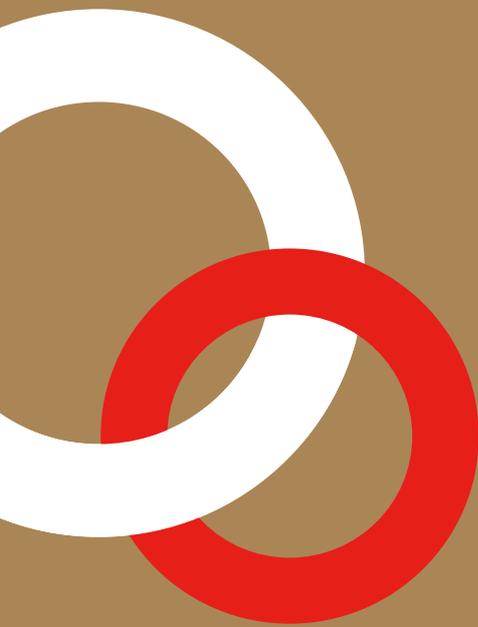


Neumuhle Spiritual Retreat Center



Unity Foundation





各種メディアの制作と発信

五井平和財団の理念と活動のほか、平和の創造に向けた様々な人々の英知や取り組みを紹介する出版物、映像、デジタルメディアなどを制作し、発信しています。

書籍(日本語)



あなたは世界を変えられる

2002年 アーヴィン・ラズロ、西園寺昌美著／河出書房新社

危機にある21世紀の人類が、破滅への道ではなく、持続可能な成長と無限なる進化の道に至るための、明確な理念と方法を示した、アーヴィン・ラズロ博士と西園寺昌美会長の共著。



これから資本主義は変わるのか — 17人の賢人が語る新たな文明のビジョン

2010年 五井平和財団 編／英治出版

世界で活躍するオピニオンリーダー17人が、グローバルに広がる経済・ビジネスの潮流変化と未来のビジョン、そして一人一人がこの時代をどう生きるべきかを語った書。



世界の若者からのメッセージ「私を変えた体験」

2012年 五井平和財団 編／フェリシモ出版

2011年度国際ユース作文コンテストの受賞16作品を収録。読者が感想や意見などを書き込み、周りの人と分かち合いながら、「育てていく」という新しいコンセプトの書籍。

映像制作

■ 主催イベントなどのビデオ

フォーラムや講演会などのビデオをインターネット配信 (YouTubeチャンネル) するほか、DVDで頒布しています。

■ CS放送番組「平和の創造」

[1999-2006]

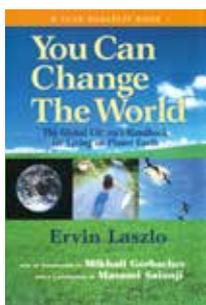
1999年10月から2006年3月まで、CS放送「精神文化の時間」の中で、番組「平和の創造」を毎週放映し、五井平和財団の取り組みを広く発信しました。

■ CNNでピースメッセージの公共広告放映

[2003-2005]

世界各地の人々の平和の祈りのメッセージを集めた五井平和財団制作の公共広告が、CNNを通して全世界で放映されました。

書籍(英語)



You Can Change the World: The Global Citizen's Handbook for Living on Planet Earth

SelectBooks, 2003

『あなたは世界を変えられる』の英語版。ミハイル・ゴルバチョフ序文。



Earthrise: The Dawning of a New Civilization in the 21st Century

Herbert Utz Verlag, 2008

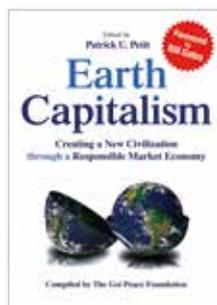
新しい文明に向けた画期的な取り組みを行っている世界の30団体の活動を紹介する寄稿集。



Wisdom 21: Shaping the Culture of Peace in a Multilateral World

The Goi Peace Foundation, 2005
Transaction Publishers, 2010

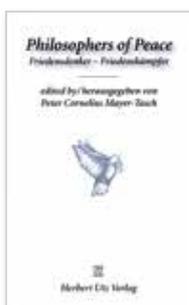
国連創設60周年を記念し、平和への取り組みを行っている様々な国際機関の活動を紹介する寄稿集。



Earth Capitalism: Creating a New Civilization through a Responsible Market Economy

Herbert Utz Verlag, 2009
Transaction Publishers, 2010

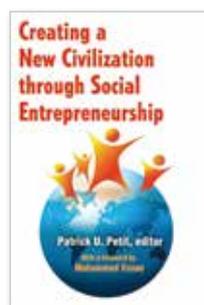
科学、経済、ビジネスなど多様な分野のリーダーが語る新しい経済のパラダイム。



Philosophers of Peace

Herbert Utz Verlag, 2007

五井平和財団とミュンヘン政治学院の共同制作。五井昌久を含む古今東西12人の平和哲学者を紹介。



Creating a New Civilization through Social Entrepreneurship

Herbert Utz Verlag, 2009
Transaction Publishers, 2010

ムハマド・ユヌス、ビル・ドレイトンら世界を代表する社会起業家からの寄稿集。

デジタルメディア

■ ウェブサイト

五井平和財団 www.goipeace.or.jp

富士宣言 www.fujideclaration.org

Entrepreneurship Campus/Youth Citizen Entrepreneurship

Competition www.entrepreneurship-campus.org

■ SNS(facebookページ)

五井平和財団/The Goi Peace Foundation [@goipeace](https://www.facebook.com/goipeace)

地球っ子広場 [@earthkidsspace](https://www.facebook.com/earthkidsspace)

富士宣言 [@fujideclarationjp](https://www.facebook.com/fujideclarationjp)

Fuji Declaration [@fujideclaration](https://www.facebook.com/fujideclaration)

Soul of WoMen [@soulofwomen](https://www.facebook.com/soulofwomen)

Entrepreneurship Campus/Youth Citizen Entrepreneurship

Competition [@entrepreneurshipcampus](https://www.facebook.com/entrepreneurshipcampus)

■ メールマガジン

「平和の創造」(日本語)/Goi Peace News(英語)

■ 動画配信(YouTube)

五井平和財団(日本語チャンネル)

Goi Peace Foundation(英語チャンネル)

刊行物

■ 機関誌「平和の創造」(年4回)

五井平和財団のオピニオンや活動報告のほか、平和の創造に関する最新の潮流を紹介しています。(賛助会員は無料)

■ パンフレット、レポート

財団案内パンフレットや活動レポートなど、各種資料を日本語・英語で発行。PDF版はウェブサイトより無料でダウンロードできます。

謝 意

五井平和財団は、多くの皆様の物・心・労のご協力のおかげで20周年を迎えることができました。すべてのご支援に心より御礼を申し上げます。

受賞など

皆様のおかげにより、長年の平和啓発活動は国内外で高い評価をいただきました。

- 2007年 林宗毅博士文教基金会 文化賞(台湾)受賞 理事長 西園寺裕夫
- 2008年 哲学者 聖シュリー・ニャーネシュワラー世界平和賞(インド)受賞
会長 西園寺昌美、理事長 西園寺裕夫
- 2010年 女性リーダーサミット サークルアワード(米国)受賞
会長 西園寺昌美
- 〃 文部科学大臣より社会教育功労者に表彰 理事長 西園寺裕夫
- 2016年 バーバラ・フィールズ人道平和賞(米国)受賞 会長 西園寺昌美
- 2018年 ヨーロッパの『OOOM』誌「世界で最も人々をインスパイアした100人」
に選出 会長 西園寺昌美
- 2019年 ルクセンブルク平和賞「卓越した平和活動家」部門受賞
会長 西園寺昌美、理事長 西園寺裕夫



ルクセンブルク平和賞授賞式

賛助会員

当財団の活動は、賛助会員の年会費と、皆様のご寄付によって支えられています。
なお賛助会員には、個人会員と団体会員の種別があり、会費は年会費制としています。

- 個人賛助会員 1口1万円(1口以上)
- 個人特別賛助会員 1口1万円(5口以上)
- 団体賛助会員 1口5万円(1口以上)

団体賛助会員

2019年度現在、以下の団体賛助会員の皆様にご支援をいただいています。

- 有限会社アースワーク
- 合気道国際平和文化交流倶楽部
- 有限会社アルファ
- 学校法人石川学園
- 株式会社インターメディカ
- 株式会社ヴィステックエンタテインメント
- 大塚刷毛製造株式会社
- 大湊興業株式会社
- 茶道裏千家 一般財団法人今日庵
- 三松堂ホールディングス株式会社
- 株式会社シバソク
- 株式会社JUN
- ジョイスター株式会社
- 昭和電工株式会社
- 合気道進藤道場
- 株式会社盛光化学
- 株式会社竹中工務店
- 株式会社TAKプロパティ
- 寺田倉庫株式会社
- テラル株式会社
- 株式会社日本薬学研究所
- ハイランドリゾート株式会社
- 株式会社博報堂
- 八海醸造株式会社
- 日の丸交通株式会社
- 株式会社フォーラムエンジニアリング
- 株式会社船井本社
- プラス株式会社
- 株式会社プラスパ
- 未来戸
- 株式会社ミロク情報サービス
- 室蘭清掃株式会社
- 株式会社明德
- 八木工業株式会社
- 八千代産業株式会社
- 株式会社祐伸産業
- 有限会社ユタカ工業
- 株式会社ラテール・エンタプライズ

協賛企業

これまでに、以下の企業・団体の皆様に各種事業をご支援いただきました。

- 株式会社市川環境エンジニアリング
- セイコーホールディングス株式会社
- 日本コカ・コーラ株式会社
- 株式会社サクラクレパス
- 全日本空輸株式会社
- 株式会社バソナグループ
- ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
- 株式会社トンボ鉛筆
- 株式会社フェリシモ
- スジャータ めいらくグループ
- 日本航空株式会社
- プラス株式会社

ボランティア

賛助会員の皆様を中心に、多くの方々がボランティアとしてご協力くださっています。

- **コミュニケーター** 五井平和財団の活動を周囲に紹介し、事務局と賛助会員の方々の間の円滑なコミュニケーションを支援して下さる方々。
- **地球っ子広場コーディネーター、スタッフ** 各地での地球っ子広場を運営して下さる方々。
- **フォーラムなどのイベント運営や様々な事務作業をお手伝い** 下さる方々。



賛助会員やボランティアの方々との交流を深める機会として、会員総会「報告と感謝の集い」や懇談会を各地で開催しています。

選考委員

各事業の選考委員として、以下の皆様にご協力をいただいています。

五井平和賞 選考委員

《委員長》

佐藤 禎一 東京国立博物館名誉館長
元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使

《委員》

明石 康 公益財団法人国立京都国際会館理事長
元国連事務次長

有馬 朗人 公益財団法人日本科学技術振興財団顧問
物理学者、元文部大臣

近衛 忠輝 日本赤十字社名誉社長

西園寺昌美 公益財団法人五井平和財団会長

田坂 広志 多摩大学大学院名誉教授
シンクタンク・ソフィアバンク代表

村上 和雄 筑波大学名誉教授、公益財団法人国際科学
振興財団バイオ研究所所長

国際ユース作文コンテスト 選考委員

《委員長》

千 玄室 茶道裏千家前家元
公益財団法人日本国際連合協会会長

《委員》

西園寺昌美 公益財団法人五井平和財団会長

都倉 俊一 作曲家
一般社団法人日本音楽著作権協会特別顧問

成田 純治 株式会社博報堂取締役相談役

服部 真二 セイコーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼グループCEO

松浦晃一郎 一般社団法人アフリカ協会会長
元ユネスコ事務局長

美内すずえ 漫画家

矢崎 和彦 株式会社フェリシモ代表取締役社長

葉 祥明 絵本作家

青少年育成に係る若手指導者養成奨学金制度 選考委員

《委員長》

成田 純治 株式会社博報堂取締役相談役

《委員》

魚谷 雅彦 株式会社資生堂代表取締役社長兼CEO

大塚 久利 大塚刷毛製造株式会社前代表取締役会長

西園寺裕夫 公益財団法人五井平和財団理事長

竹田 恆和 日本オリンピック委員会前会長

都倉 俊一 作曲家

一般社団法人日本音楽著作権協会特別顧問

服部 真二 セイコーホールディングス株式会社

代表取締役会長兼グループCEO

五井平和財団 役員・スタッフ

当財団の発展にご尽力くださった役員の皆様ならびにスタッフ

役員・評議員・顧問

《会 長》	西園寺昌美	《評 議 員》	
《理 事 長》	西園寺裕夫	植芝 守央	合気道道主
《常務理事》	川村 真妃 宮崎 雅美	長内 博雄	学校法人武蔵野東学園アドバイザー ドメンバー
《理 事》		高木 秀二	医学博士、たかぎ小児クリニック院長 医療法人社団真誠会理事長
明石 康	公益財団法人国立京都国際会館理事長 元国連事務次長	竹中 統一	株式会社竹中工務店取締役会長CEO
今里 隆	建築家	龍村 仁	映画監督(ガイアシンフォニー)
大橋 光夫	昭和電工株式会社名誉相談役	富田 岑子	日の丸交通株式会社取締役
千 玄室	茶道裏千家家元 公益財団法人日本国際連合協会会長	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社名誉会長
成田 純治	株式会社博報堂取締役相談役	中澤 英雄	東京大学名誉教授
村上 和雄	筑波大学名誉教授、公益財団法人国際科学 振興財団バイオ研究所所長	松浦晃一郎	一般社団法人アフリカ協会会長 元ユネスコ事務局長
森島 朋三	学校法人立命館理事長	《顧 問》	
《監 事》		佐藤 禎一	東京国立博物館名誉館長 元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
磯貝 恭史	東洋紡株式会社取締役、神戸大学名誉教授	瀬木奈那子	株式会社祐伸産業代表取締役会長
加藤 秀樹	一般社団法人構想日本代表 京都大学経済学研究科特任教授		

《過去の役員・評議員・顧問》

磯邊 律男	株式会社博報堂相談役、元国税庁長官	富田 興次	公益財団法人五井平和財団常務理事
片岡 球子	画家、文化勲章受章者	日比 孝吉	スジャータ めいらくグループ代表兼CEO
尚 弘子	琉球大学名誉教授、元沖縄県副知事	俣野 華子	米国国立スミソニアン協会日本代表
菅沼 一雄	公益財団法人五井平和財団常務理事	水野 正人	ミスノ株式会社代表取締役会長
鈴木 治雄	昭和電工株式会社最高顧問	望月哲太郎	財団法人文教協会会長
田島 義博	学校法人学習院長 財団法人流通経済研究所名誉会長	吉田 弘保	弁護士・公認会計士 吉田弘保法律会計総合事務所所長
富岡 賢治	群馬県立女子大学長、元文部省生涯学習局長		

スタッフ

有馬 徹	中山 樹	望月 八潮	横沢 里美
鈴木 啓介	パトリック・プティ	矢澤由美子	
中並 千景	宮田 香織	山崎奈穂美	

《過去のスタッフ》

芦田 博	須賀 隆子	長谷川邦子	渡部 匡代
猪股 康予	出口 隆之	綿谷 亜希	
上村 恒司	中川 正忠	渡辺 宏予	

五井平和財団の理念

生命憲章

「生命憲章」は、あらゆる生命が調和し合える新しい時代の平和な世界のビジョンを示し、そのような世界を実現するための原則を提唱しています。五井平和財団の基本理念であり、すべての事業の指針となっています。

生命憲章

■ 前文

地球は進化する一つの生命体であり、地球上のあらゆる生きとし生けるものは、それぞれがみな、地球生命体を構成する大切な一員であると考えられる。従って、私たち人類は、お互いに地球生命共同体の一員としての自覚を持ち、地球の未来に対して、共通の使命と責任を果たしてゆかねばならない。

地球進化の担い手はつまるところ私たち一人一人であり、平和の実現は人類一人一人の責任と義務に他ならない。

現在に至るまで、人類の多くは足ることを知らず、有限なる資源と領土をめぐる争いが、世界各地で繰り広げられてきた。その結果として、地球環境に対しても多大なる悪影響をおよぼしてきた。新千年紀を迎え、世界平和実現の成否は、何よりも人類一人一人の意識の目覚めにかかっている。

今や人類すべてがみな自分自身の心の中に、平和と調和の世界を築いていくという、誰一人として免れることも怠ることも出来ない共通の使命を課せられているのである。

そして人類一人一人がこの共通の使命を認識し、お互いに強く結ばれていく時に、真の世界平和は達成されるのである。

今日まで、人類は、権力においても、富においても、名誉においても、また知識や技術や教育においても、それを持つ人、国、組織とそれを持たざる人、国、組織とに分れてきた。そしてそれを与える側と与えられる側、救う側と救われる側とに分れてきた。

「生命憲章」では、それらの二元対立や差別意識を超えて、すべての個人や様々な分野が参加し、まったく新しい理念のもとに平和な世界を築いていく方向を提起するものである。

■ 原則

新しい時代を迎え、人類の進むべき方向はすべてに調和した世界である。つまり、すべての個人や国々が自由に個性を発揮しながらも、お互い同士、またあらゆる生きとし生けるものとも調和し合える世界である。そのような世界を実現するための原則は：

1. 生命の尊厳

すべての生命を尊重し、愛と調和を基調とした世界。

2. すべての違いの尊重

異なった人種、民族、宗教、文化、伝統、習慣を認め合い、尊重し合い、その多様性をたたえ合い、喜び合える世界。

そして、社会的にも身体的にも、精神的にも、また、あらゆる面において、差別や対立のない世界。

3. 大自然への感謝と共生

人類は大自然の恩恵により生かされていることを認識し、動植物をはじめ、すべての生きとし生けるものに対し感謝の心を持って接し、大自然と調和、共生していく世界。

4. 精神と物質の調和

物質偏重主義から脱却し、人類の健全なる精神性が開花した、精神文明と物質文明のほどよく調和した世界。物質の豊かさだけでなく、心の豊かさが価値を持つ世界。

■ 実行

個人として

従来の国家、民族、宗教が権威と責任を持つ時代から、個の時代へと変わってゆかねばならない。個の時代といっても個人が自己中心的に生きるということではなく、個が自立をし、人類の一員としての意識を持って、それぞれの責任と使命を果たしてゆく時代へと変革させていくことが必要である。

そして個としての最大の使命は、それぞれが自己の中心に愛と調和と感謝の心を築き上げていくことである。

専門分野として

教育、科学、文化、芸術、宗教、思想、政治、経済など様々な分野がそれぞれの専門知識、技術、能力を最大限に発揮し、平和世界実現に向けて、英知の結集と、協力体制を構築していく。

若者として

20世紀においては、親が、先生が、社会が、子どもたちを教え、子どもたちは常に教えられる立場にあった。21世紀は、大人も子どもから純粋性、無邪気、明るさ、英知、直観など子どもの素晴らしさを学びとり、共に高め合う生き方が大切である。

そして、未来に向けて子どもや若者が、平和創造の担い手としての積極的な役割を果たしてゆかねばならない。

「新しい文明を築く」アプローチ

私たちは今、急速で激しい変化の時代を生きています。様々な地球規模の課題が複雑化し、人類の文明そのものが存亡の危機にあると言っても過言ではありません。しかし、この危機的状況は、同時に、地球人類が飛躍的に進化向上する転機とも言えます。

五井平和財団では、以下の「4つのS」を基軸に据え、既に世界中で起こっている変革の兆しに光を当てながら、新しい文明に向けたパラダイムシフトを世界のパートナーたちと共に目指しています。

Sustainability

サステナビリティ(持続可能性)

地球温暖化、資源の枯渇、異文化衝突、貧富の格差など、環境、社会、経済のあらゆる問題は相互に関連しており、人間が引き起こしたものです。このまま崩壊への道を突き進むのか、それとも地球やあらゆる生命が持続的に繁栄できる道を選ぶのか、人類が重大な分岐点に立つ今、一人一人に責任ある選択が迫られています。

Systems

システム(制度)

私たち人間は大きな地球生命体システムの一部です。その人間が築いた経済・政治の制度や社会のあらゆるシステムを、生態系など自然のシステムと調和させる必要があります。現行のシステムは既に疲弊しており、ホリスティックな視点に立った新しい制度・システムへの転換が求められます。

4つのS

Science

サイエンス(科学)

量子物理学、宇宙科学、生命科学、意識の科学などの最先端の領域では、これまでの常識を打ち破る新しい世界観や生命観が生まれつつあります。科学がもたらすパラダイムシフトが、新しい文明を築く大きなカギと考えます。

Spirituality

スピリチュアリティ(精神性)

一人一人の意識の目覚めと創造力の発現こそ、未来を築く原動力です。これからの地球社会における人間のあらゆる営みは、精神的価値に根ざしたものでなければなりません。人間が内面的により高いレベルへ進化し、あらゆる生命との一体感を体得したとき、人類の生き方は大きく変わると考えます。

富士宣言

「富士宣言」は、新しい文明に向けて一人一人の意識変革を呼びかけるものです。五井平和財団は、その趣旨に賛同し、実践する人々の輪を世界各地、各分野に広げています。

富士宣言

神聖なる精神の復活とすべての生命が一つにつながる文明へ向けて

地球人類の文明は新たな進化の段階を迎えつつある。様々な危機的状況により、世界中で混乱や不安が絶えない今、私たちは考え方や生き方の根本的な変革を迫られている。絶滅に向けて危機の深みに陥ってゆくのか、それともすべてのものが生かされる尊厳ある世界を切り開いてゆくのか、今こそ一人一人の選択と決断に委ねられている。これまで人類は、主として唯物的な意識に導かれてきた。欠乏を恐れ、必要以上に物質を求めて奪い合い、地球の自然資源を枯渇させてきた。このまま人間の願望が有限な物質の追求にのみ向けられ続けたならば、世界が破滅に至ることは不可避である。

■ 人間の本質とは何なのか

人類が賢明な選択によって明るい未来へと方向転換するには、生命に関する根本的な問題に立ち返らなければならない。一人一人が真剣に人間の本質を問い、明確な答えを見出さなければならない。世界の偉大な宗教や思想は、私たちの生命が宇宙の源と密接につながっていることを語り継いできた。最先端の物理科学と生命科学においても、この古くからの洞察が見直されつつある。人は自らの生命と自然や宇宙とのつながりを再発見することにより、多様性を持ちながらすべてが統一と調和へと向かう宇宙の流れに沿った生き方が可能となる。神聖なる精神を呼び覚まし、自らに内在する愛、思いやり、英知、喜びといった善なる心を顕現し、輝かしい生き方ができるのである。今こそ、一人一人が魂の中の神聖なる生命を復活させる時である。

■ 私たちが存在する目的は何なのか

私たちは地球人類にとって重大な移行期に生を受け、平和に向けて大きく前進する可能性を与えられている。この地上に真の平和を築くことこそ、私たちすべての人間の究極の目的である。そしてそれは個々人の生き方、あり方を通して達成できるのである。自らの責任において意識的に生きることにより、人は誰でも生まれ持った自由と能力を使い、自分の運命と世界の未来を創り上げることができるのである。私たちが成すべきことは、人間の精神の持つ力を最大限に発揮し、人類家族と地上のすべての生命のために奉仕する、思いやりと尊厳ある世界を共に創ることである。

■ 新しい文明に向けて

科学者、芸術家、政治家、実業家など、様々な分野の人々が今こそ力を合わせ、歴史的な転換を引き起こすための確固たる基礎を築くことが急務である。あらゆる人々が勇氣ある先駆者となり、個人・文化・国家の利害や専門分野の枠をこえ、全人類のためにその英知と魂と意思を結集すべき時が来たのである。そうすることにより、今日の持続不可能な世界を支配している固定観念や時代遅れな行動様式を覆し、未来世代のために調和と繁栄の文明を設計することができるのである。

■ 新しい文明のパラダイム

新しい文明のパラダイムとなるのは、すべては多様性の中で一つにつながっているという価値観である。身体は無数の細胞や器官が相互につながり、調和して働くことにより生命を維持しているように、生あるものはすべて地球が奏でる生命交響曲の本質的な一部である。宇宙は多様性と統一性を併せ持ちながら生きているのである。私たちはその一部であることをはっきり認識して、人間同士、そして自然との共創的なつながりの中で進化を遂げてゆくのである。

一人一人の宣言

私たちは未来世代に対して、責任ある個として、

- 人間の本質である神聖なる精神と善なる心を復活させ、自らの上に顕現すること
- 地球上に真の平和を築くという人類共通の使命を、自らの生き方と行動を通して果たしてゆくこと
- 生きとし生けるものは多様でありながら一つにつながっていることを認識し、すべての生命を尊重し、いきいきと活かすこと
- 人間の精神の限らない創造性を発揮し、経済、科学、医療、政治、教育、宗教、芸術、メディア等あらゆる分野に必要な変容をもたらすために尽力すること
- 調和した精神文明を実現するために、一人一人が内在する素晴らしさを顕現し、人類の進化に向けた大きな一歩を共に踏み出すことを、ここに宣言するものである。

公益財団法人 五井平和財団

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第1ビル

TEL : 03-3265-2071 FAX : 03-3239-0919

info@goipeace.or.jp www.goipeace.or.jp

©The Goi Peace Foundation 2019

